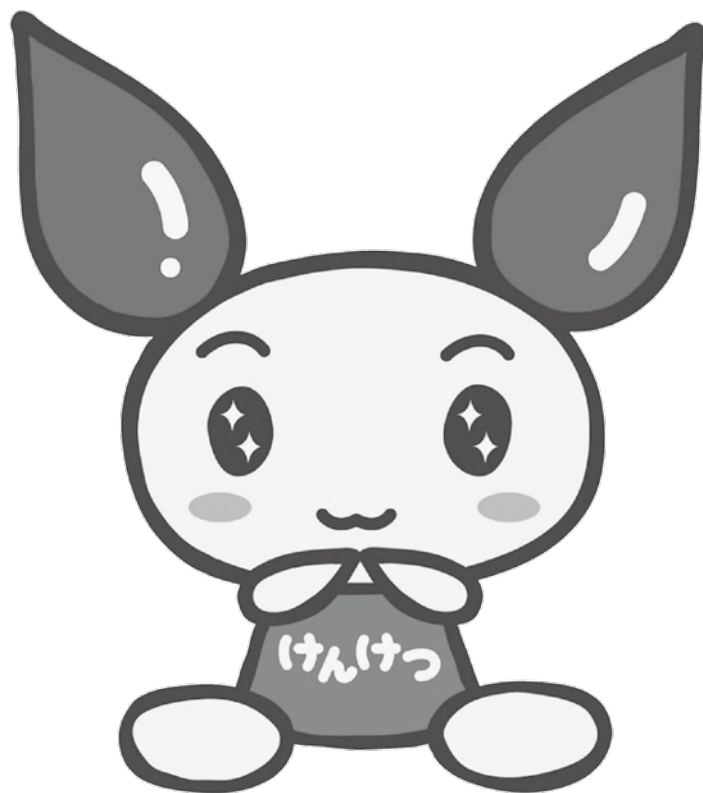


献血おかやま

(令和4年度 献血の概況)



献血キャラクター けんけつちゃん

岡山県保健医療部医薬安全課

はじめに

献血事業の推進につきましては、皆様方には日頃から格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和4年度の全国の献血者数は5,008,741人であり、対前年度比99.1%と減少しております。

一方、岡山県における献血者は、79,251人であり、対前年度比99.7%と減少しました。なお、全血献血者における400mL 献血者の割合は98.7%となり、献血量は31,524.34Lを確保することができました。

しかしながら、高齢化や医療技術の進歩により、血液製剤を必要とする患者さんが増加し、年間を通じた安定的な血液製剤の供給が必要となっています。一方で、少子化の進展による献血可能人口の減少や若い世代の献血離れ等により、将来の献血者の確保が憂慮される状況です。

このため、岡山県では市町村及び関係機関・団体と緊密に連携し、①献血者の確保対策、②血液製剤の安全性確保対策、③血液製剤の適正使用の推進を三本柱として効果的な献血運動の推進に取り組んでいます。

献血者の確保対策としては、献血思想の普及啓発はもとより、若い世代から若い世代への普及啓発を推進し、将来の献血者の安定確保を図るとともに、献血組織の育成強化や複数回献血者の確保に努め、医療需要の高い400mL献血、成分献血への協力を呼びかけるなど、献血の推進を図っていくこととしています。

また、血液製剤の安全性確保対策としては、岡山県赤十字血液センターにおいて、献血時の本人確認や検査を目的とする献血の排除、海外渡航歴等問診の充実・強化を図るとともに、平成26年8月より日本赤十字社において、すべての輸血用血液について肝炎ウイルスなどの核酸増幅検査（NAT）を個別に実施するなど、安全な血液製剤の確保、供給をより一層推進することとしています。

さらに、血液製剤の適正使用の推進では、「岡山県合同輸血療法委員会」を中心に血液製剤の使用指針及び輸血療法の実施に係る指針等について周知を図っていくこととしています。

この冊子は、岡山県における令和4年度の献血の状況をまとめたものです。献血への関心を皆様方に高めていただくとともに、地域や事業所等においてもより一層の献血推進に取り組んでいただく契機となりますようお願いいたします。

献血は人の命を救うことができるボランティアです。今後とも、皆様方の御理解と御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年8月

岡山県保健医療部医薬安全課



けんけつちゃん

はじめに

目次

全国の献血

献血者数の状況 1

献血方法別献血者数 1

岡山の献血

献血者数の状況 2

献血量の状況 2

年代別の状況 3

献血率（年代別）の状況 4

職業別の状況 4

性別の状況 5

性別種類の状況 5

場所別の状況 6

受入施設別献血者数の状況（1稼動当たり） 6

献血ルームうらら（血液センター）の状況 7

献血ルームももたろうの状況 8

献血バスの状況 9

大学生等学生献血の状況（高校生を除く） 10

高校生献血の状況 10

検査の状況 11

供給等の状況 12

献血Web会員サービス「ラブラッド」 13

資料

献血及び供給等の状況

献血者・献血量の状況 14

場所別・種類別献血の状況 15

供給の状況 15

年度別献血者・献血量の状況 16

場所別年代別献血の状況 16

場所別職業別献血の状況 16

保健所管内別・市町村別献血状況（場所別） 17

保健所管内別・市町村別献血状況（住所別） 18

保健所管内別・市町村別献血状況（住所別） 献血可能人口から見た献血率 19

血液検査項目の一覧表 20

生化学検査の項目 20

血球計数検査の項目 21

主な輸血用血液・血漿分画製剤の一覧表 21

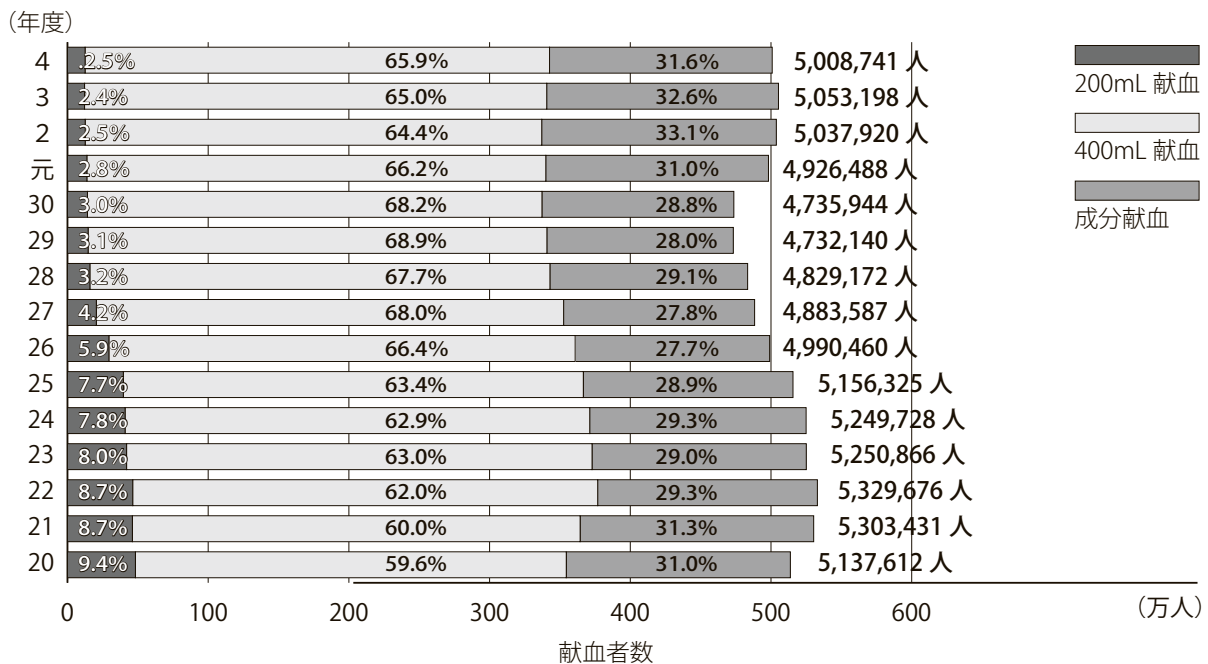
市町村献血推進事業 22

表彰状及び感謝状贈呈団体（個人） 23

令和4年度献血事業実施概要 25

全国の献血

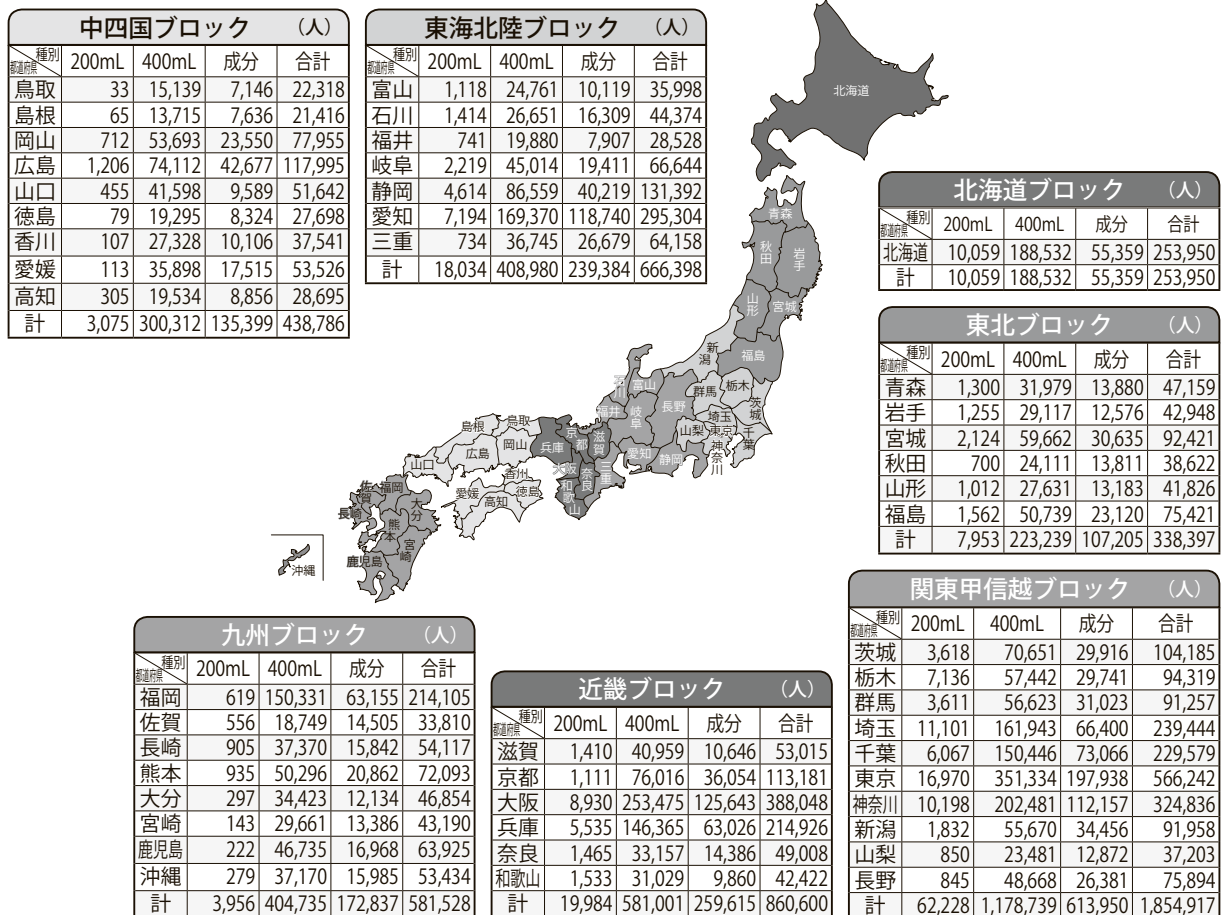
●献血者数の状況



●献血方法別献血者数

(令和4年1月~12月)

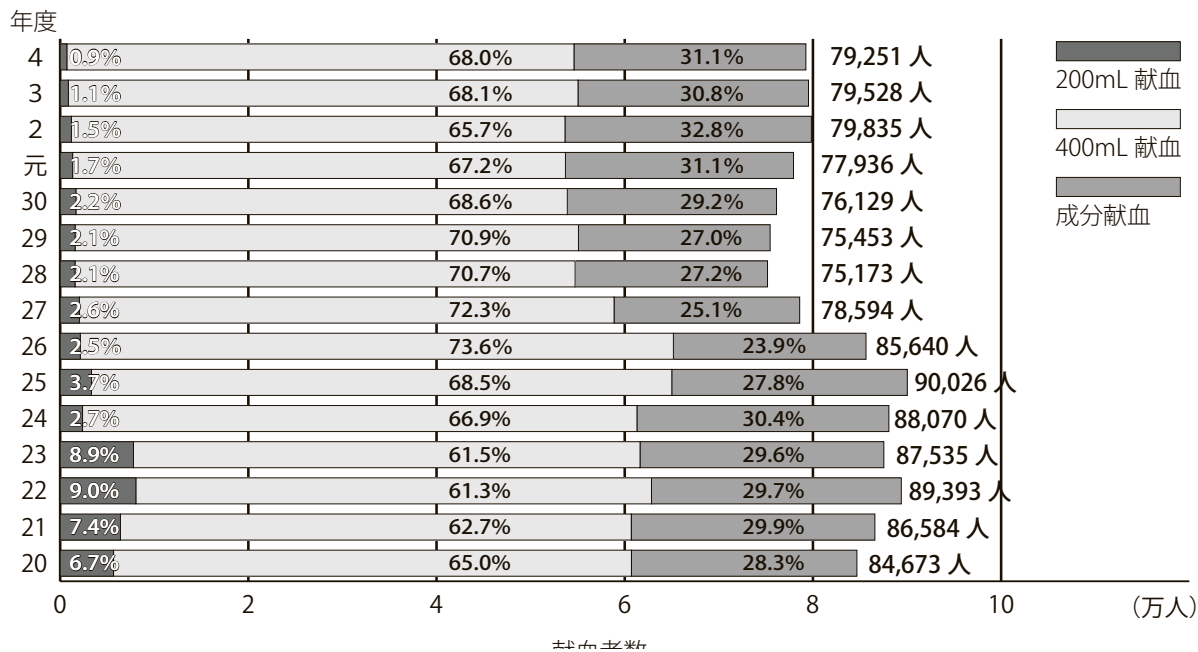
全国4,994,576人



岡山の献血

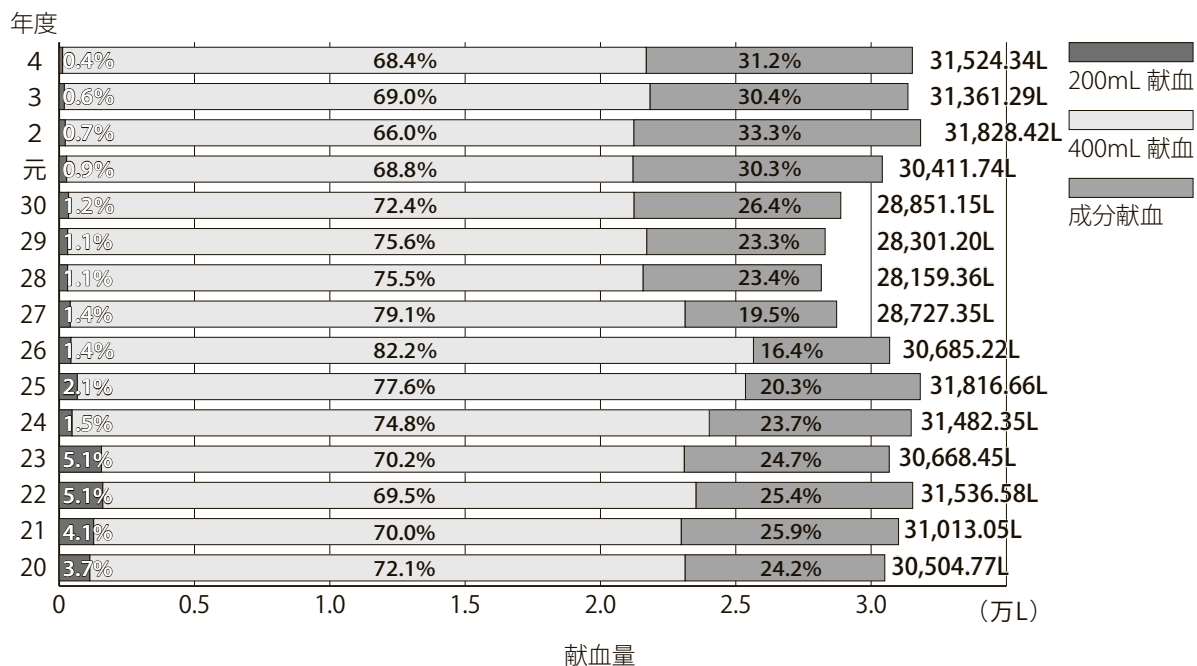
●献血者数の状況

令和4年度の献血者数は、前年度に比べ0.35%減少した。



●献血量の状況

令和4年度の献血量は、前年度に比べ163.05L増加した。



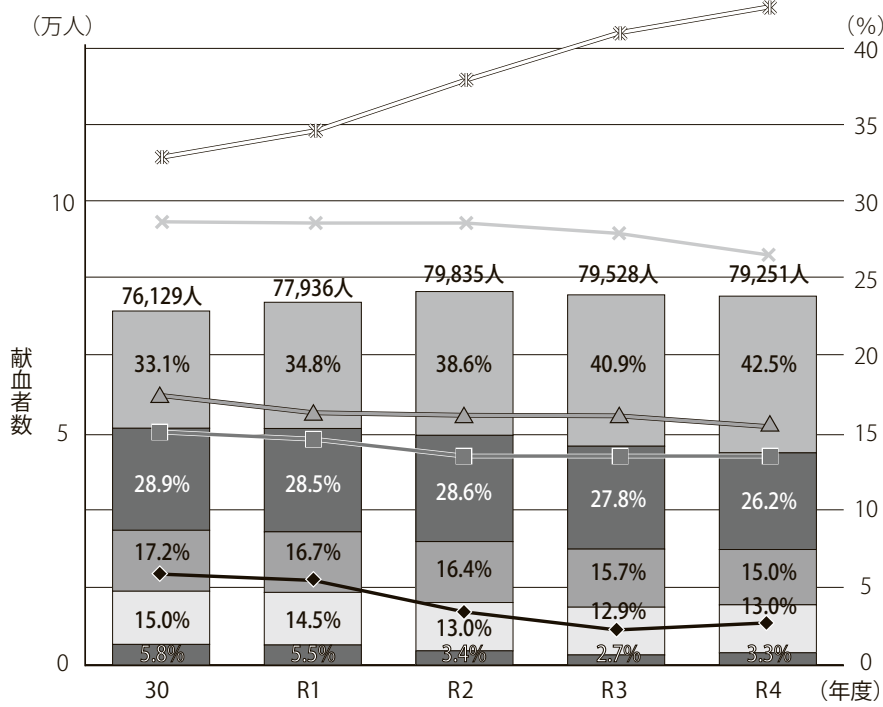
※血漿分画製剤用血漿量を除く。

●年代別の状況

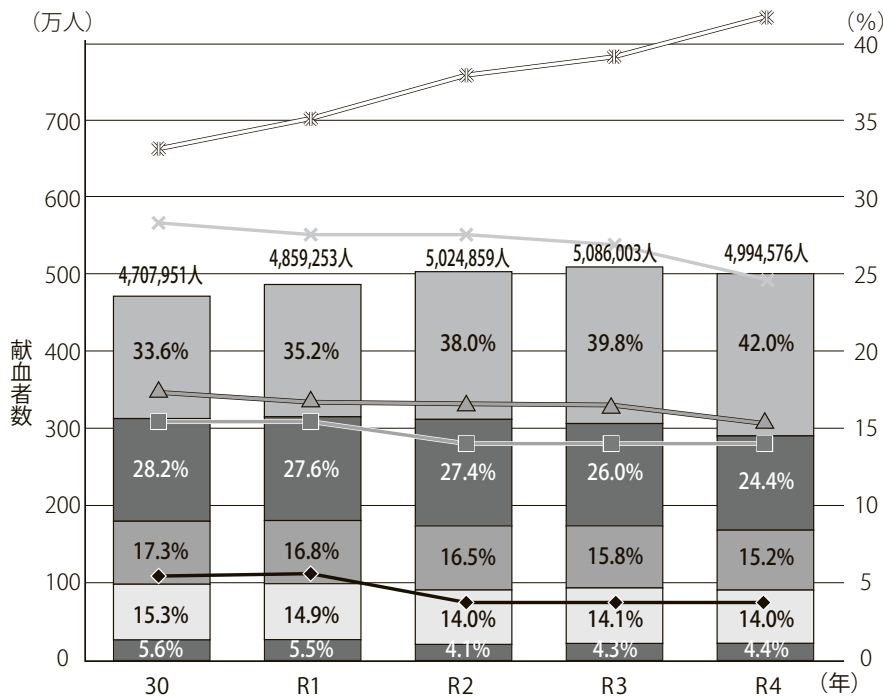
年代別の構成は、全国、岡山県ともに40代以上の占める割合が高い。



岡山県（年度）



全国（1月～12月）

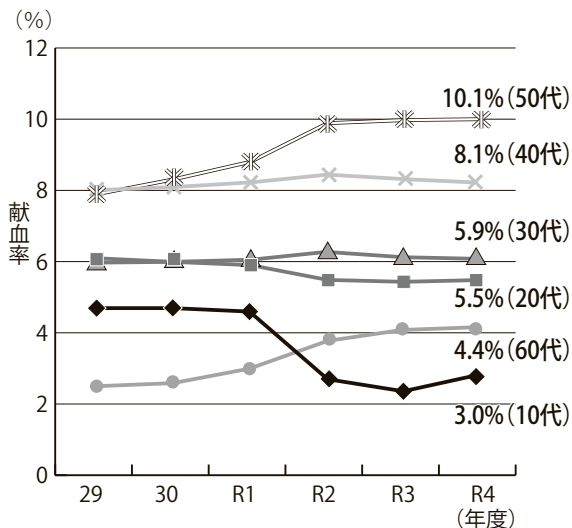


●献血率（年代別）の状況

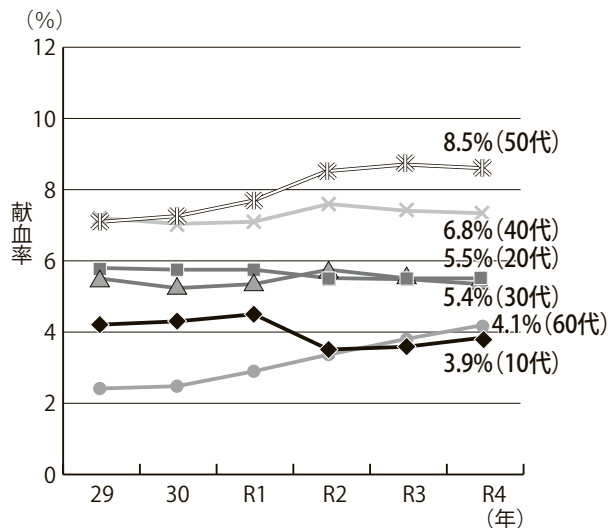
年代別の献血率で見ると、岡山県は全国と比べ、10代、20代以外の年代が高く、50代の割合が最も高い。

◆…10代 ■…20代 ▲…30代 ×…40代 ※…50代 ●…60代

岡山県（年度）



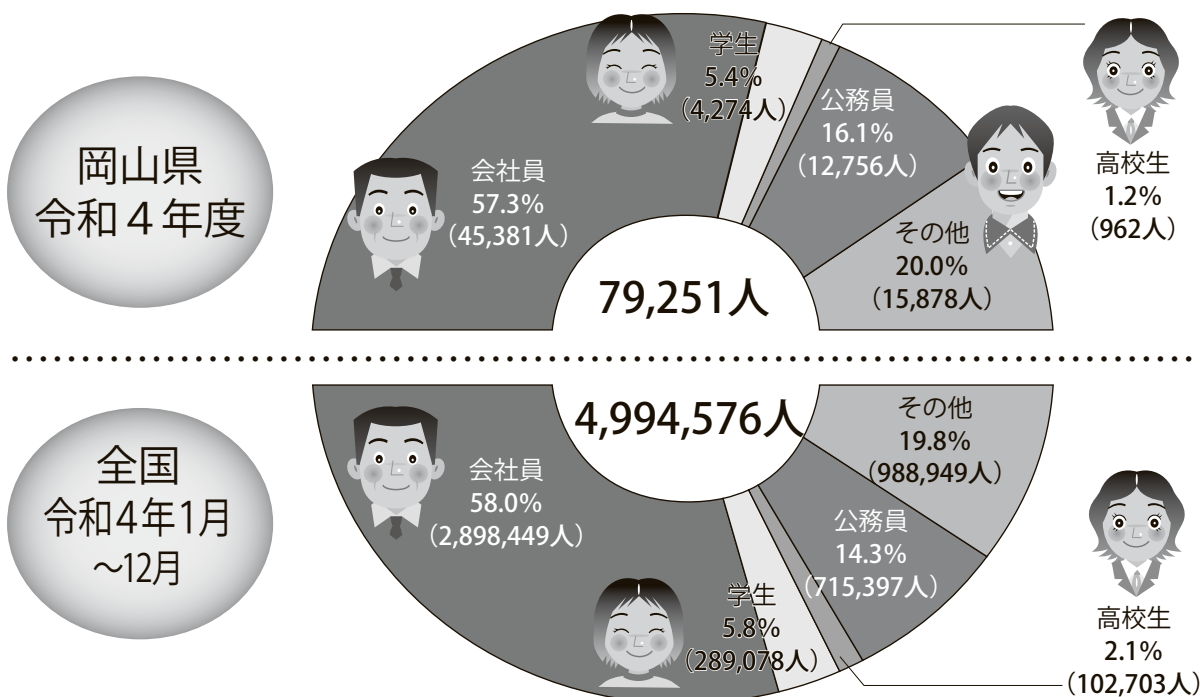
全国（1月～12月）



※「献血率」は、住民基本台帳人口要覧に基づく年代毎の人口により算出
 ※16～19歳の「献血率」は、15～19歳の人口より算出

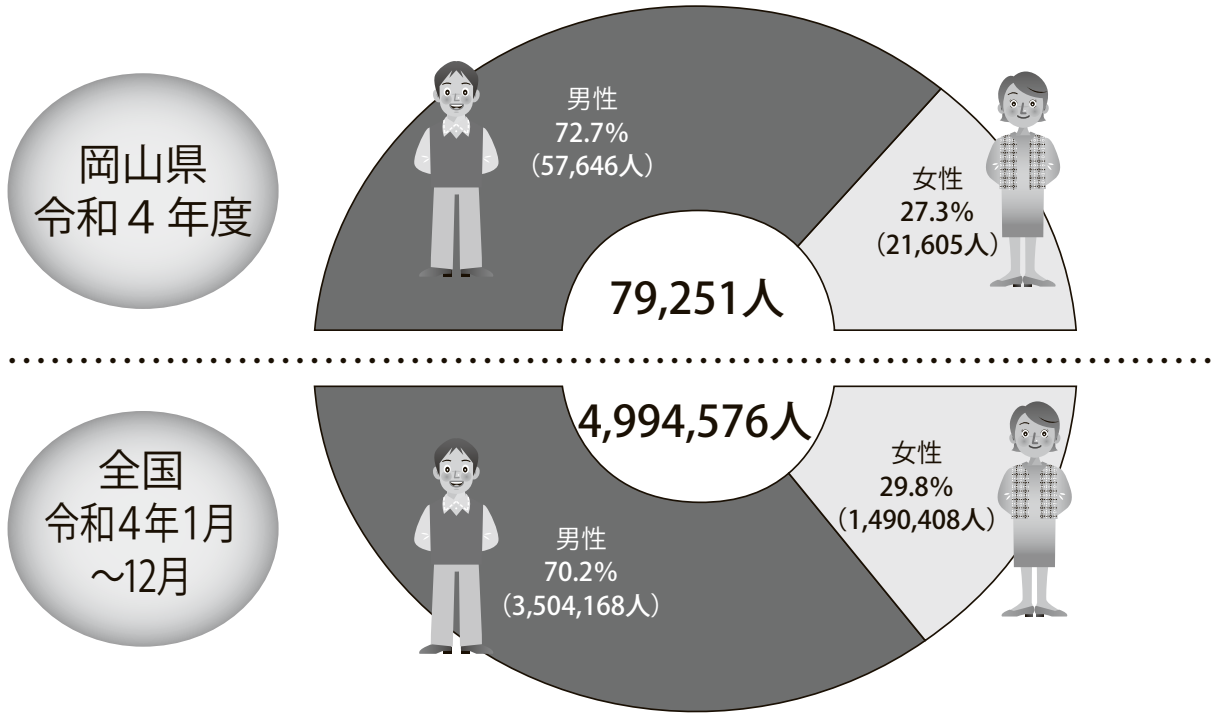
●職業別の状況

岡山県は全国と比べ、公務員の占める割合が高く、会社員の割合が低い。



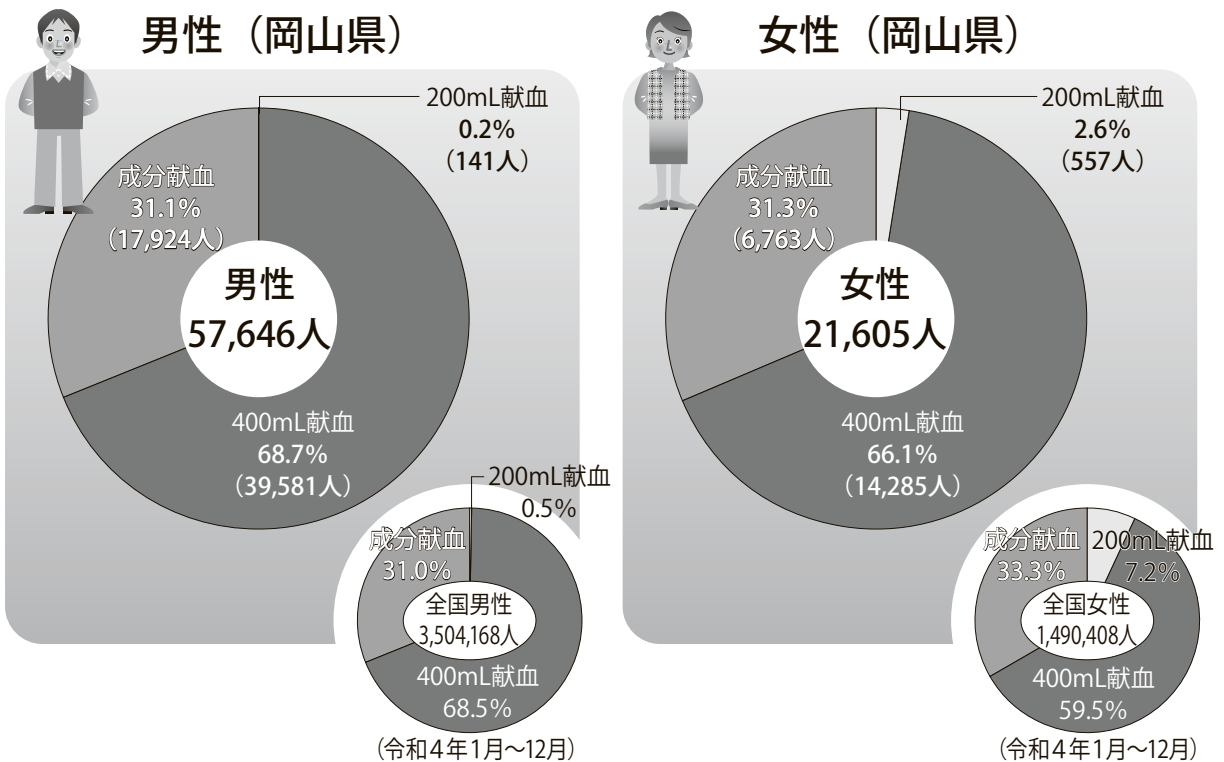
●性別の状況

岡山県は、男性の割合が全国と比べ高い。



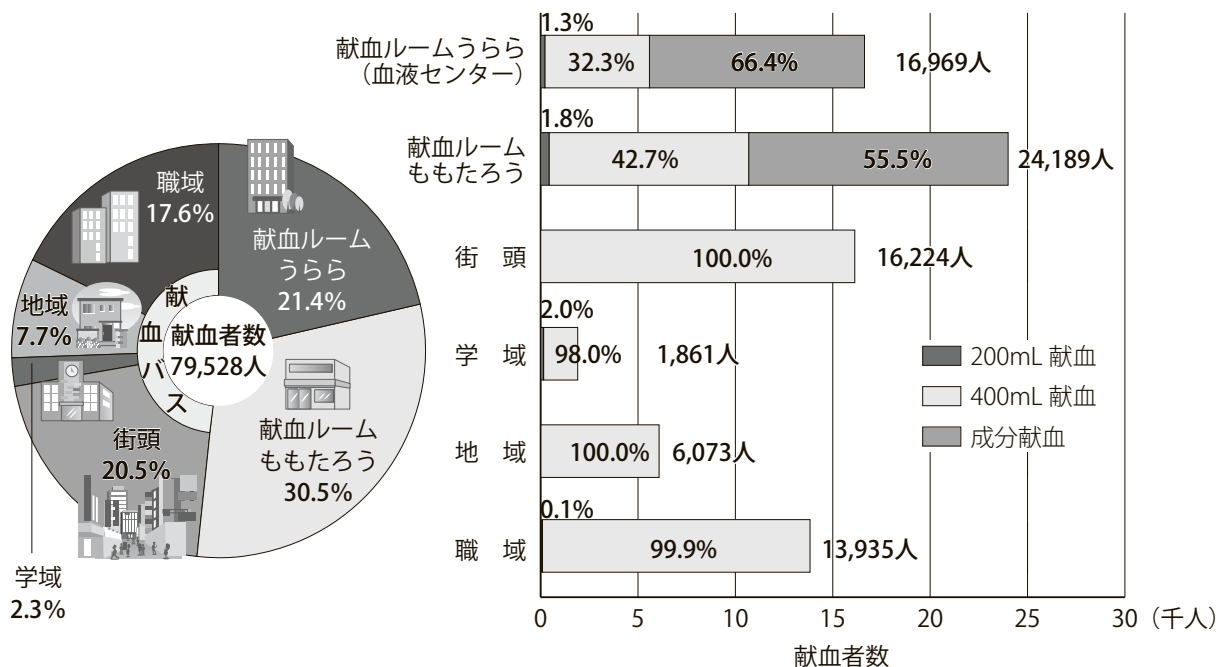
●性別種類別の状況

岡山県での400mL献血の割合は、男性が68.7%を占めており、女性は66.1%を占めている。



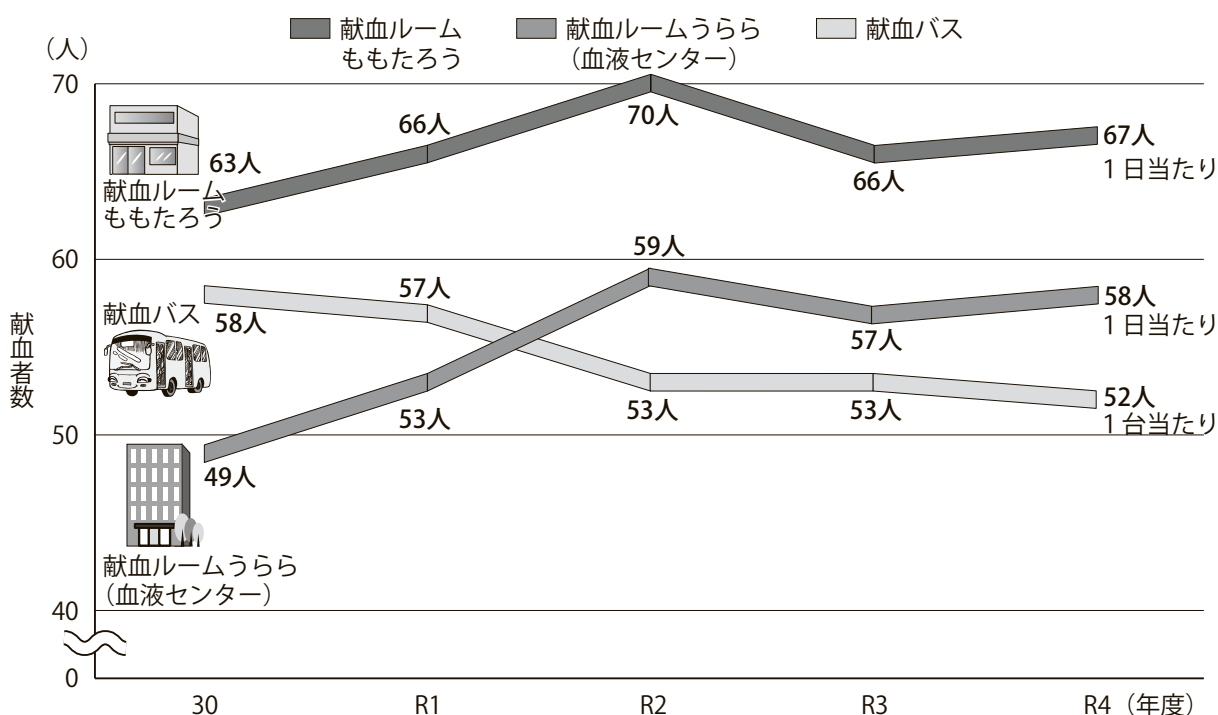
●場所別の状況

献血バス（職域・地域・学域及び街頭）での献血が全体の48.1%を占めている。街頭・地域・職域献血では400mL献血者がほぼ100%である。また、成分献血では、献血ルームうらら（血液センター）では66.4%、献血ルームももたろうでは55.5%を占めている。



●受入施設別献血者数の状況（1稼動当たり）

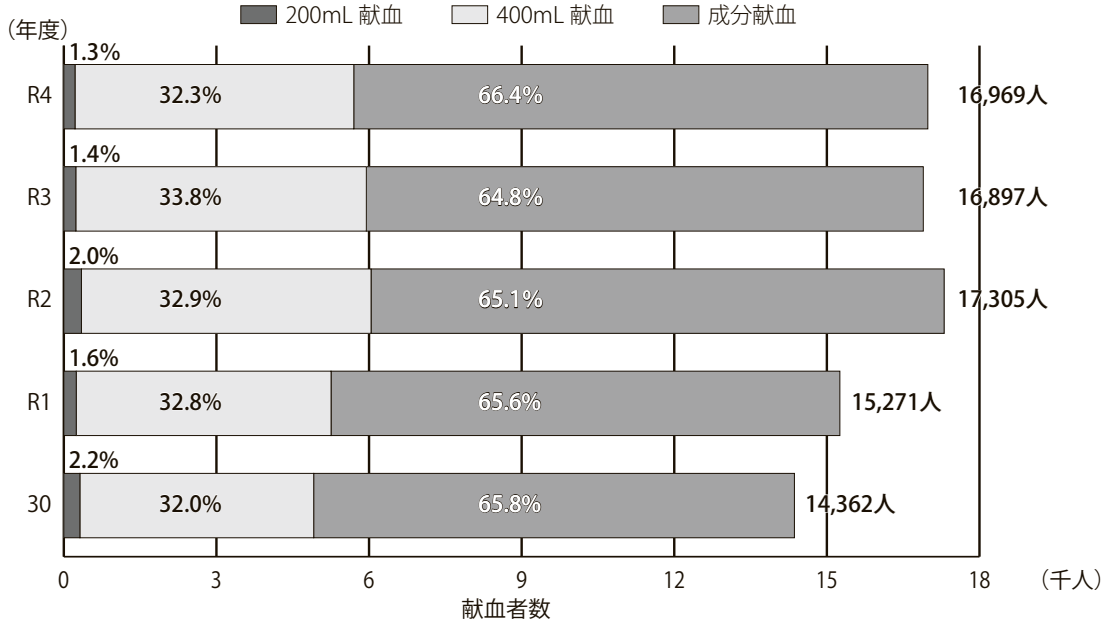
前年度と比べ、献血ルームももたろう及び献血ルームうらら（血液センター）の1稼動当たりの献血者数は増加した。



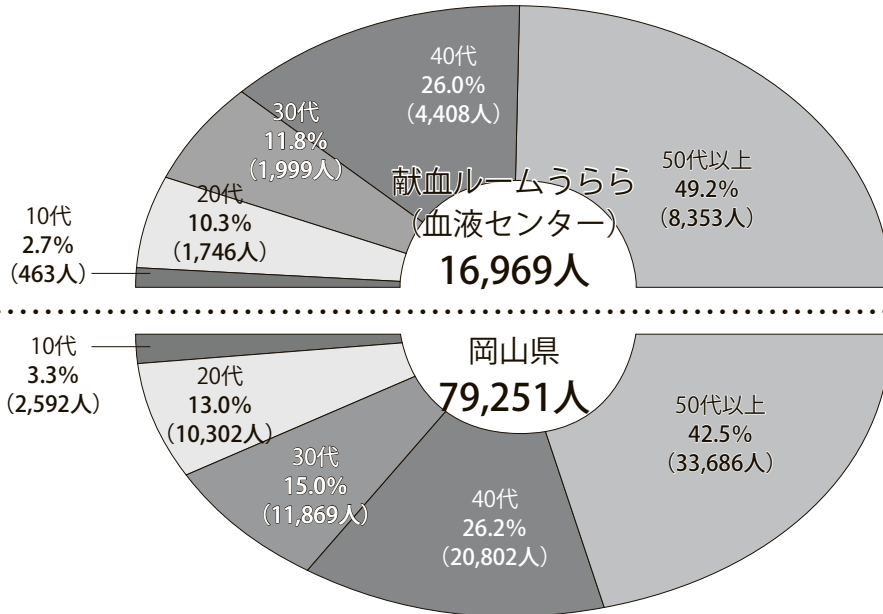
●献血ルームうらら(血液センター)の状況

献血者数は、前年度より72人増加した。
岡山県全体と比べ、年代別では50代以上の占める割合が高い。
職業別では、会社員の割合が高い。

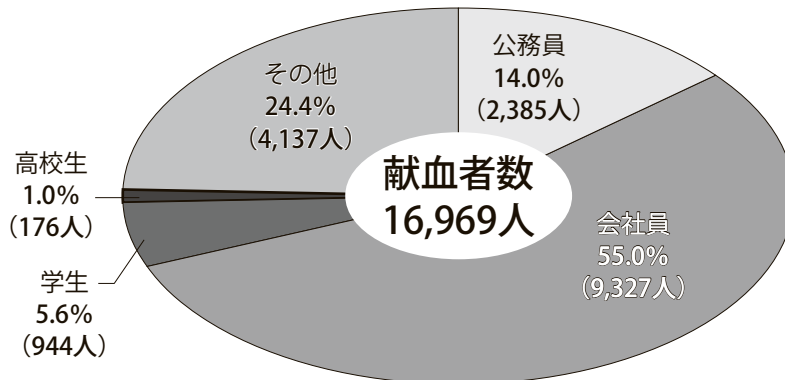
年度別の状況



年代別の状況



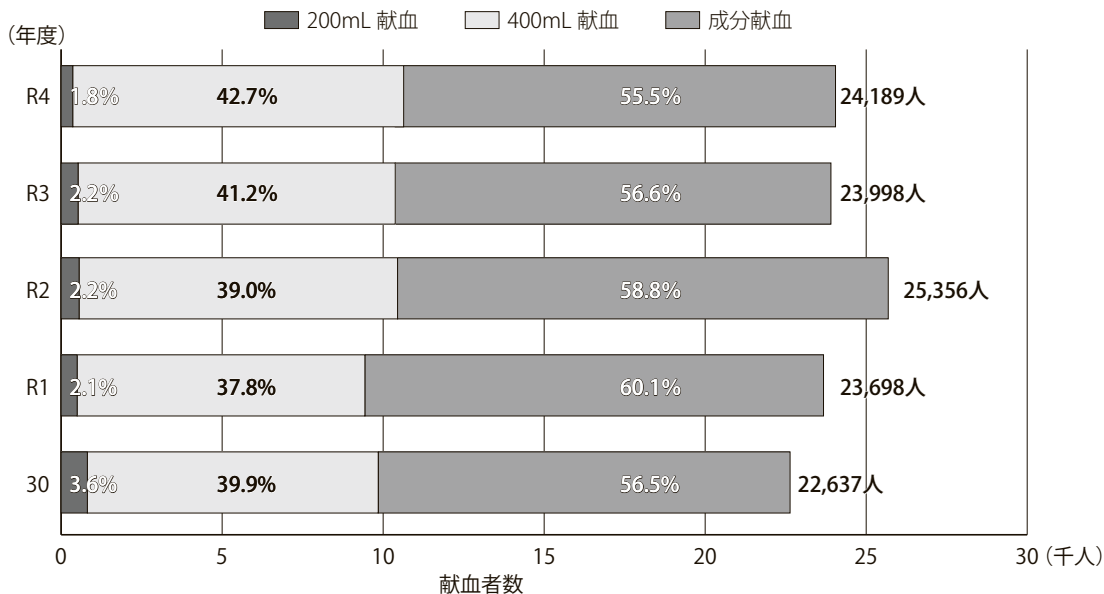
職業別の状況



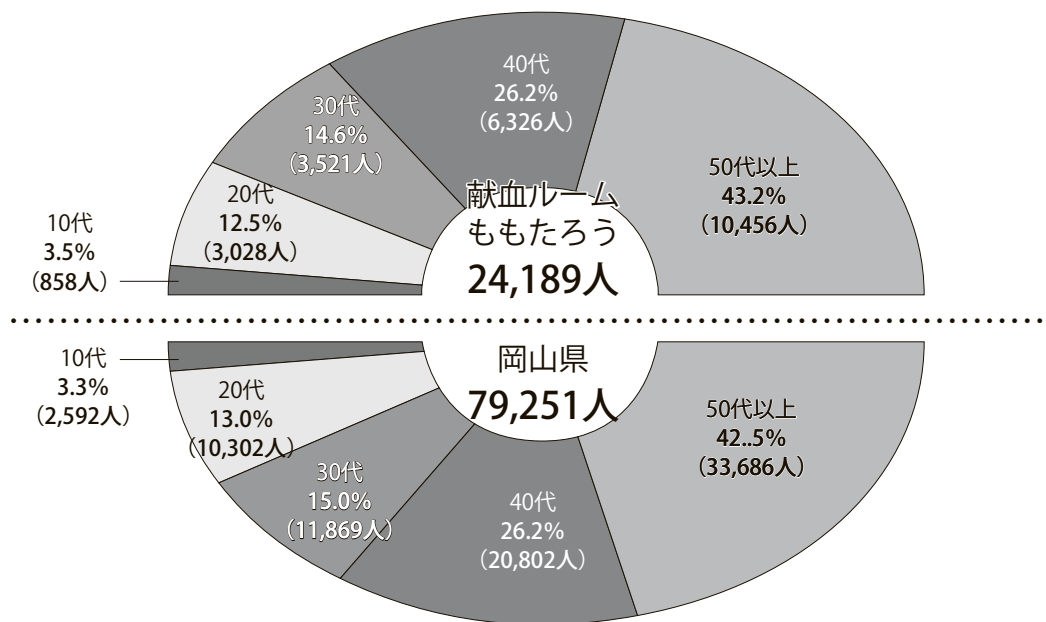
●献血ルームももたろうの状況

献血者数は、前年度より191人増加した。
岡山県全体と比べ、年代別では、10代、50代以上の占める割合が高い。
職業別では、会社員の割合が高い。

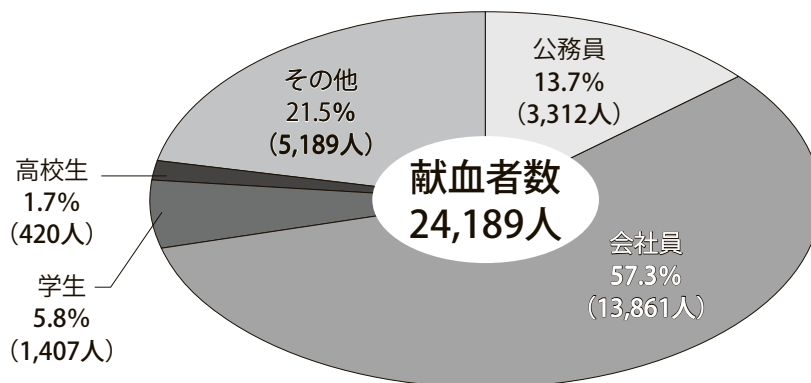
年度別の状況



年代別の状況



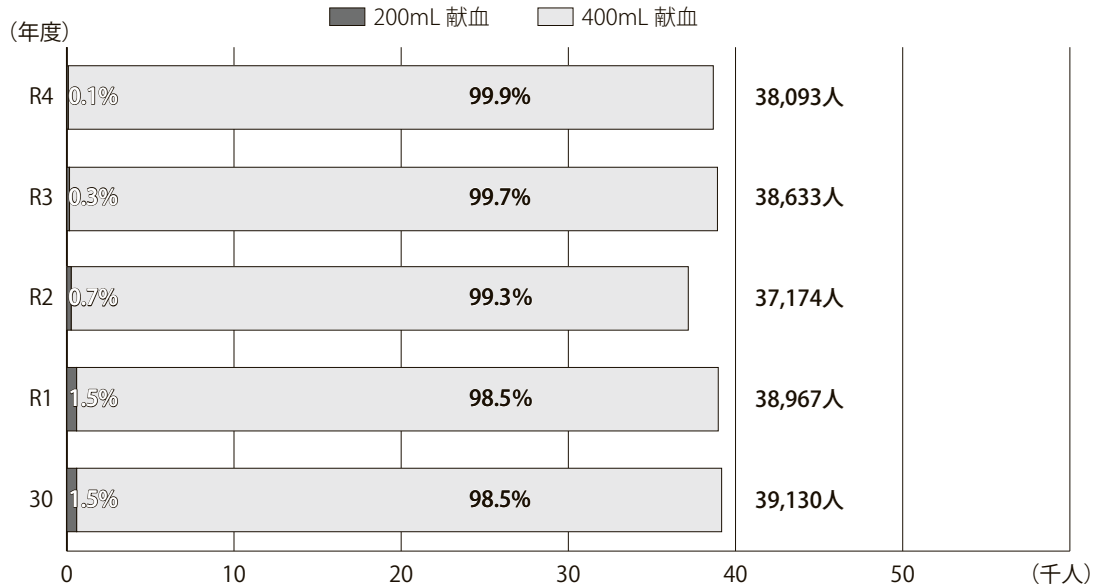
職業別の状況



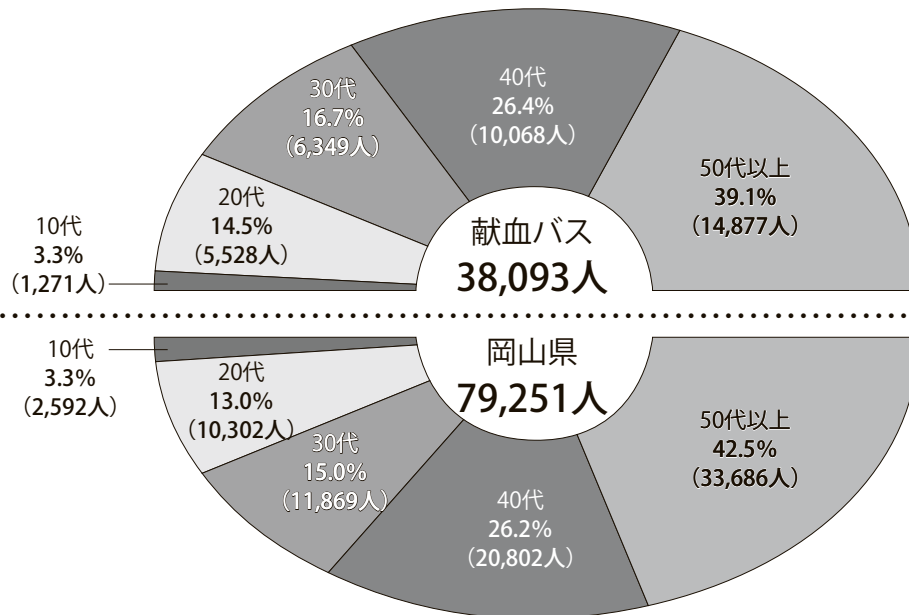
●献血バスの状況

献血者数は、前年度より540人減少した。
岡山県全体と比べ、年代別では、20代、30代、40代の占める割合が高い。
職業別では、会社員の割合が高い。

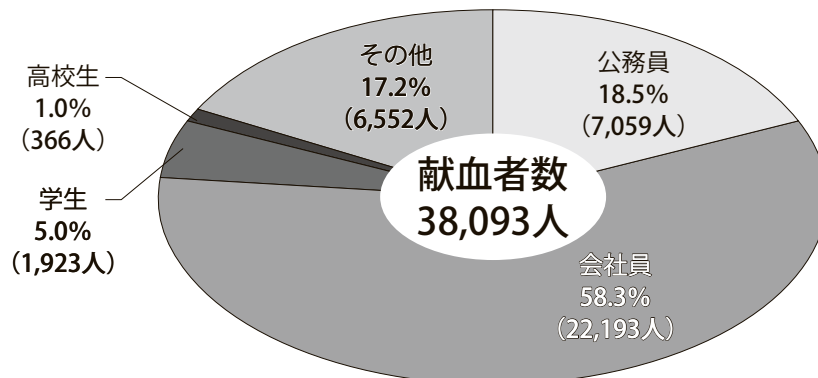
年度別の状況



年代別の状況



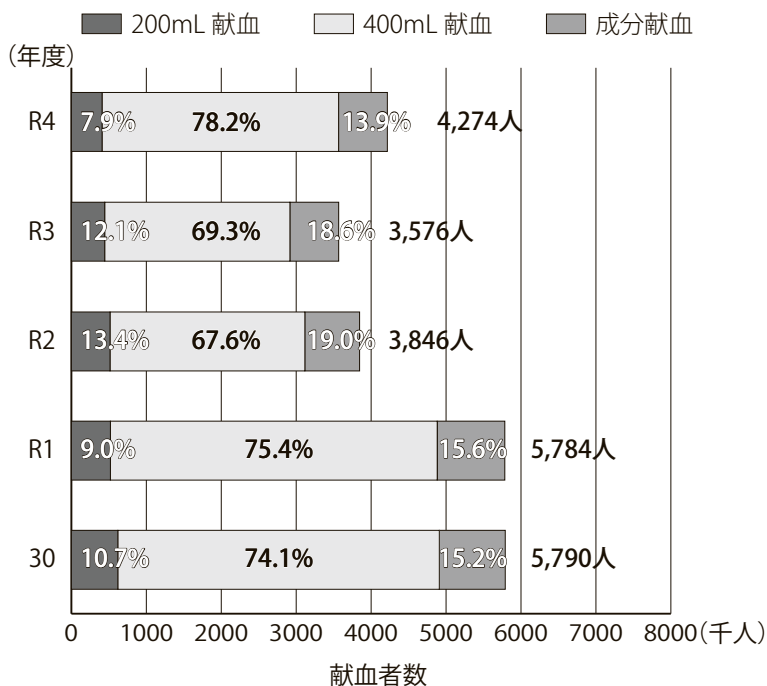
職業別の状況



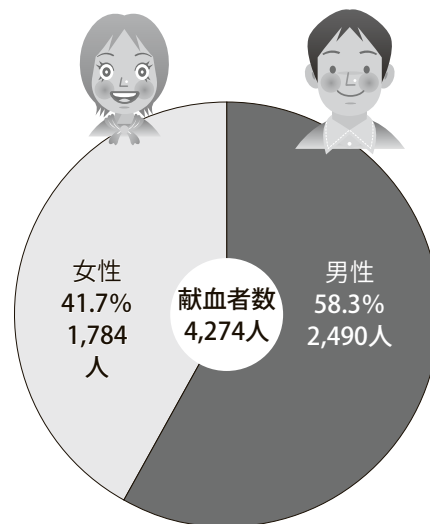
●大学生等学生献血の状況（高校生を除く）

献血者は前年度に比べ698人増加した。

年度別の状況



性別の状況



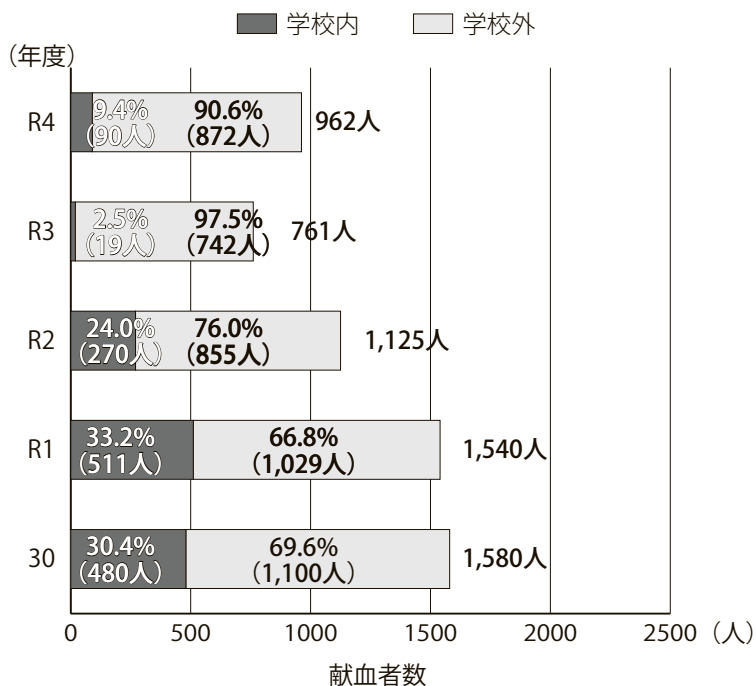
●高校生献血の状況

献血者数では前年度に比べ、201人増加した。

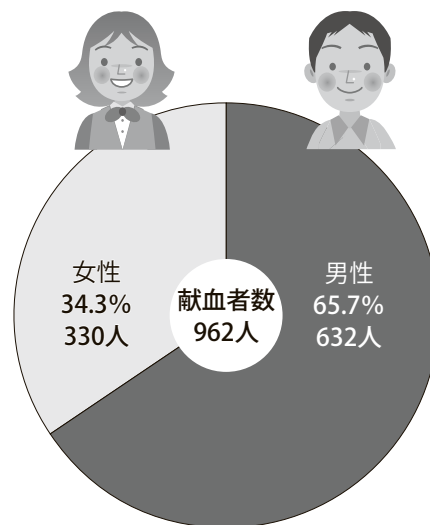
性別では、男性が65.7%を占めている。

(学校内実施校数3校で3回)

年度別の状況



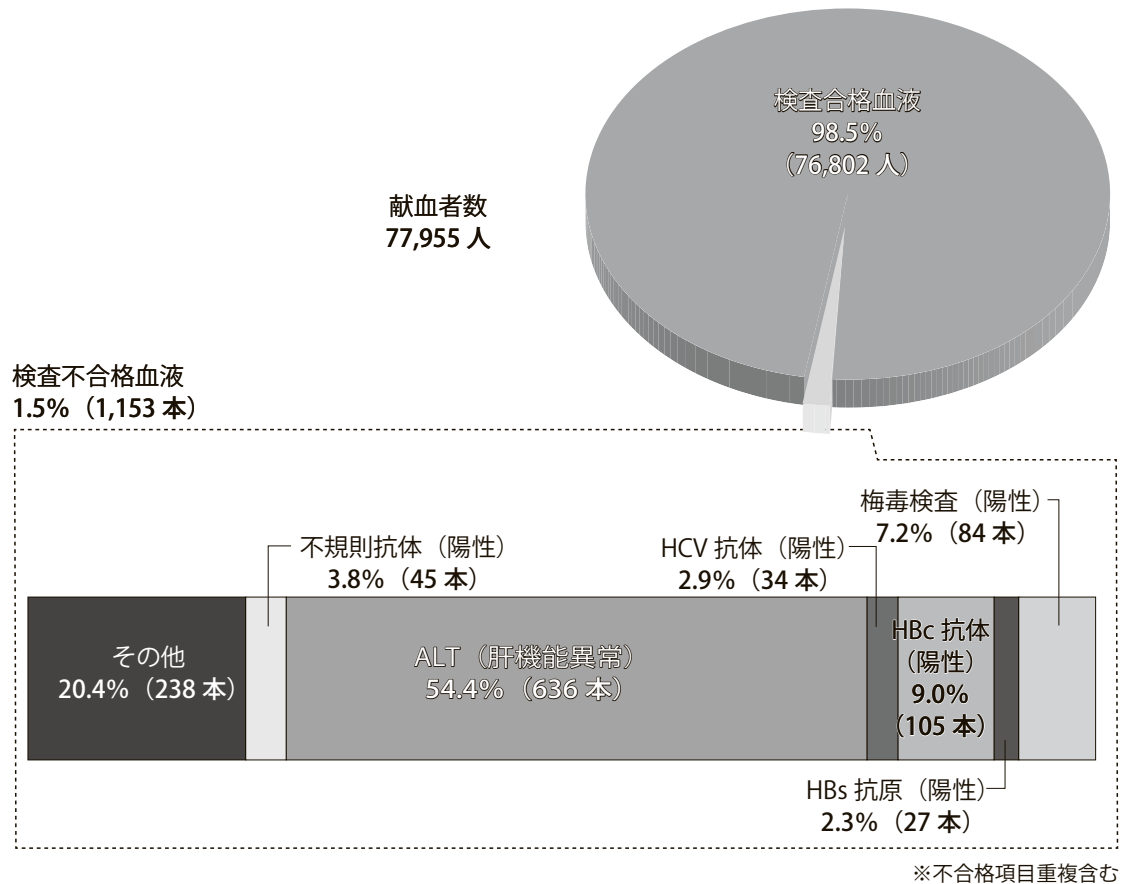
性別の状況



●検査の状況

献血した後の血液検査状況

献血された血液のうち1.5%は検査不合格で輸血に使用できなかった。その主な理由は、ALT値の異常であり、54.4%を占めている。(令和4年1月～12月)



ご存知ですか？ 血液の型

A型・B型・O型・AB型。一般的にいわれる血液型は、「ABO血液型」と言われるものですが、それ以外にも「Rh血液型」という、血液型があることもみなさんご存知と思います。

「Rh血液型」は、通常、陽性（プラス）、陰性（マイナス）で表現されますが、陰性となる日本人は「200人に1人」と言われております。また、その他にも血液型は多くの分類があり、中には世界で数名しかいらっしゃらないような“まれな血液型”もあります。

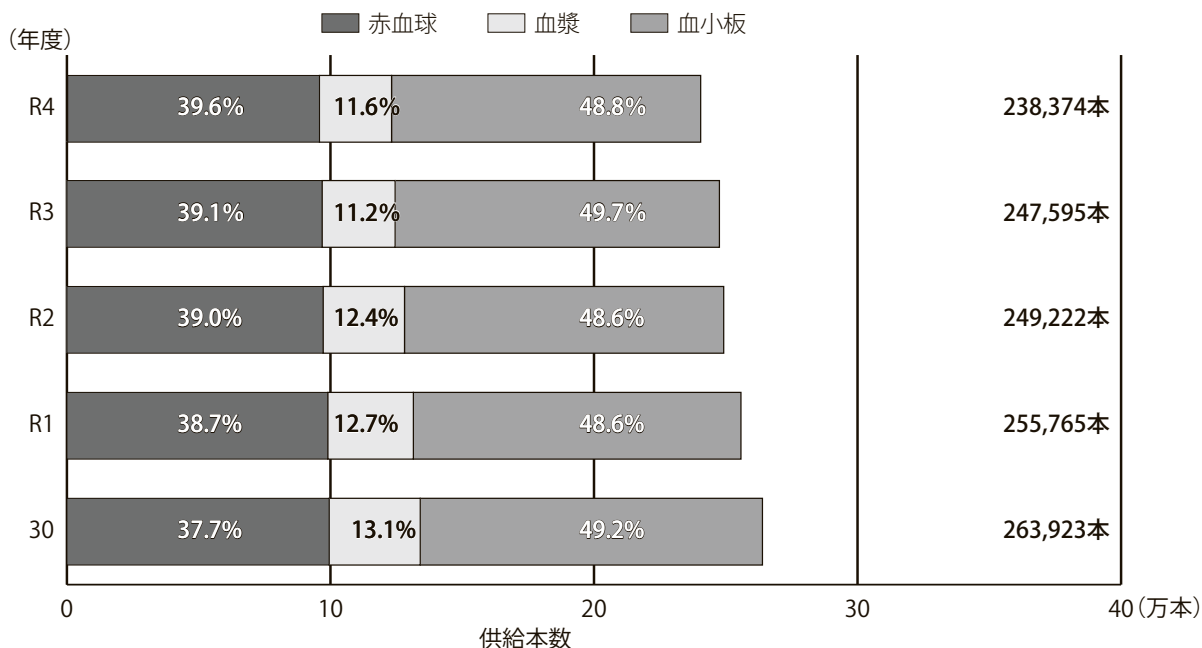
献血により、このような血液型の献血者がみつかり、まれな血液型の血液が不足した場合に備え、献血の要請に応じていただける献血者の登録をお願いしております。更に国内で賄えない場合は、国外に協力を要請することもあります。

数多くの方のご協力をお願いします！

●供給等の状況

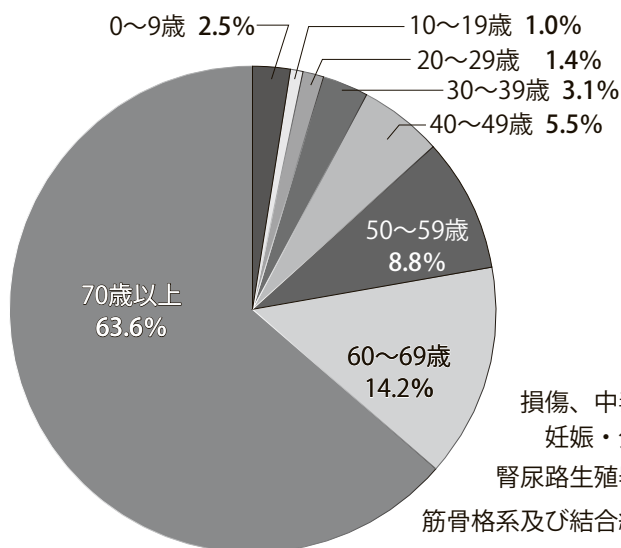
輸血用血液の供給状況

県内の医療機関への供給は、前年度より9,221本減少した（200mL換算）。
血小板製剤が48.8%を占めている。



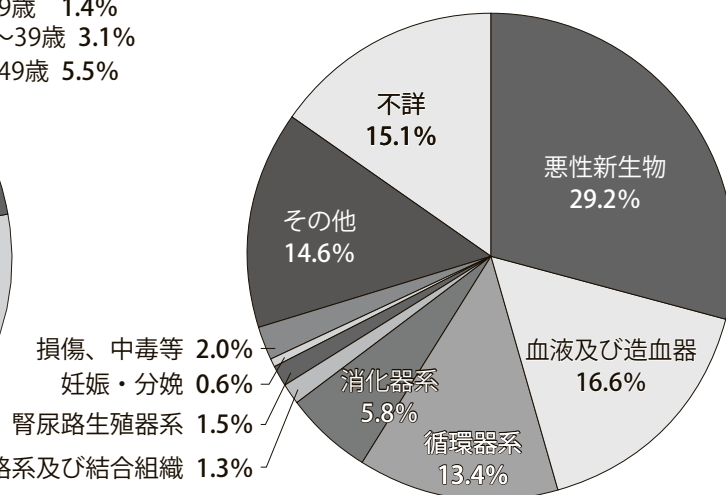
年代別輸血状況

輸血用血液の86.6%は50歳以上の
方々に使用されている。



疾病別輸血状況

輸血用血液の29.2%はがん(悪性新生物)
の患者さんの治療に使われている。



※東京都保健医療局「令和3年輸血状況調査集計結果」を加工

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない。

●献血Web会員サービス「ラブラッド」

医療機関へ安定的に血液を供給し、輸血を受けられる患者さんが安心して治療を受けられるようにするためには、輸血用の血液を十分に確保する必要があります。日本赤十字社では、平成18年に「複数回献血クラブ」を設立しました。

平成30年10月には、利用者の方へのサービス向上を目的として、献血Web会員サービス「ラブラッド」へリニューアルを行いました。ぜひ会員登録をお願いいたします。

○会員になると

- ・全国の献血会場（一部を除く）のWeb予約が可能になります
- ・ポイントを貯めて記念品と交換できます
- ・血液の検査結果等を含む献血記録が献血後数日でWebにて確認できます※会員になられた方は検査結果通知はがきの発送を停止します。従来どおり発送をご希望する場合は受付スタッフまでお知らせください。
- ・血液の検査結果等を含む献血記録がいち早くわかります
- ・過去の献血記録が確認できます（平成17年4月以降）
- ・会員限定オリジナルデザインの献血カードに交換できます
- ・メールやLINEで会員限定のお知らせやご案内、献血の依頼等が届きます（次回献血可能日、イベント、キャンペーン情報、「献血のお願い」など）
- ・住所変更のお手続きがWeb上で可能になります。

○会員になると

有効期間のある献血用血液を医療機関からの需要に応じて確保していくために、また、献血される方が一時的に集中することによる密集や密接を避けるため献血のご予約をお願いしています。ぜひ「ラブラッド」でご予約の上、献血会場にお越しください。

○会員登録の条件

- ・献血者コードをお持ちの方（ただし平成25年10月以降に献血歴がある方）
- ・受付時の質問（「血液センターから必要に応じて献血協力をお願いをしてよろしいでしょうか」）に「はい」と回答されている方
- ・インターネットに接続できるPCまたはタブレット・スマートフォンをお持ちで、メールアドレスをお持ちの方（以下の条件を満たす必要があります）
 - ①JavaScriptが動作すること
 - ②Cookieが使用可能なこと
 - ③TLS 1.2に対応していること

○「献血のお願い」が届くのはこんなとき

- ・有効期間が最も短い（採血後4日間）「血小板製剤」の原料となる「血小板成分献血」のご協力が必要なとき
 - ・がん等の病気の治療や手術などに多く使用される「赤血球製剤」の原料となる「400mL献血」のご協力が必要なとき
 - ・Rh（-）やHLA（白血球に固有の血液型）などを適合させた血液が必要なとき
 - ・悪天候や極度の寒暖等により献血者数が減少した（または減少が見込まれる）とき
- ※そのほか、各種イベントやキャンペーン情報等もお届けします！
※特に冬場から春先にかけては献血者が減少しがちなため、「献血のお願い」が届きましたらぜひご協力をお願いします。

○会員登録する

- ・献血Web会員サービス「ラブラッド」のサイトから「新規会員登録」を行ってください。
- ・献血Web会員サービス「ラブラッド」のサイトはこちらから
<https://www.kenketsu.jp/Login>

●献血及び供給等の状況

1. 献血者の状況

種別	月別												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
200m L 献血 (人)	令和4年度	83	76	44	55	68	60	55	52	51	42	51	61	698
	令和3年度	107	85	66	86	76	80	83	53	73	39	55	74	877
	対前年度比(%)	77.6	89.4	66.7	64.0	89.5	75.0	66.3	98.1	69.9	69.9	107.7	92.7	82.4
400m L 献血 (人)	令和4年度	4,457	4,305	4,554	4,146	4,223	4,284	4,802	4,668	4,906	4,194	4,499	4,828	53,866
	令和3年度	4,227	4,814	4,631	4,095	4,497	4,407	4,653	4,686	4,770	4,657	4,222	4,469	54,128
	対前年度比(%)	105.4	89.4	98.3	101.2	93.9	97.2	103.2	99.6	102.9	90.1	106.6	108.0	99.5
成分献血 (人)	令和4年度	1,876	1,926	1,925	1,945	2,078	1,917	2,140	1,944	2,269	1,955	2,242	2,470	24,687
	令和3年度	1,935	2,162	2,159	2,194	2,317	2,081	2,071	1,996	2,078	1,859	1,757	1,914	24,523
	対前年度比(%)	97.0	89.1	89.2	88.7	89.7	92.1	103.3	97.4	109.2	105.2	127.6	129.0	100.7
年度別比較 (人)	令和4年度	6,416	6,307	6,523	6,146	6,369	6,261	6,997	6,664	7,226	6,191	6,792	7,359	79,251
	令和3年度	6,269	7,061	6,856	6,375	6,890	6,568	6,807	6,735	6,921	6,555	6,034	6,457	79,528
	対前年度比(%)	102.3	89.3	95.1	96.4	92.4	95.3	102.8	98.9	104.4	94.4	112.6	114.0	99.7

2. 献血量の状況

種別	月別												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
200m L 献血 (L)	令和4年度	16.60	15.20	8.80	11.00	13.60	12.00	11.00	10.40	10.20	8.40	10.20	12.20	139.60
	令和3年度	21.40	17.00	13.20	17.20	15.20	16.00	16.60	10.60	14.60	7.80	11.00	14.80	175.40
	対前年度比(%)	77.6	89.4	66.7	64.0	89.5	75.0	66.3	98.1	69.9	69.9	107.7	92.7	82.4
400m L 献血 (L)	令和4年度	1,782.80	1,722.00	1,821.60	1,658.40	1,689.20	1,713.60	1,920.80	1,867.20	1,962.40	1,677.60	1,799.60	1,931.20	21,546.40
	令和3年度	1,690.80	1,925.60	1,852.40	1,638.00	1,798.80	1,762.80	1,861.20	1,874.40	1,908.00	1,862.80	1,688.80	1,787.60	21,651.20
	対前年度比(%)	105.4	89.4	98.3	101.2	93.9	97.2	103.2	99.6	102.9	90.1	106.6	108.0	99.5
成分献血 (L)	令和4年度	737.56	786.62	776.42	781.22	820.08	748.61	845.05	774.28	901.55	777.51	896.26	993.18	9,838.34
	令和3年度	766.67	856.49	840.91	851.27	893.92	804.74	807.98	778.54	797.35	714.98	677.94	743.90	9,534.69
	対前年度比(%)	96.2	91.8	92.3	91.8	91.7	93.0	104.6	99.5	113.1	108.7	132.2	133.5	103.2
年度別比較 (L)	令和4年度	2,536.96	2,523.82	2,606.82	2,450.62	2,522.88	2,474.21	2,776.85	2,651.88	2,874.15	2,463.51	2,706.06	2,936.58	31,524.34
	令和3年度	2,478.87	2,799.09	2,706.51	2,506.47	2,707.92	2,583.54	2,685.78	2,663.54	2,719.95	2,585.58	2,377.74	2,546.30	31,361.29
	対前年度比(%)	102.3	90.2	96.3	97.8	93.2	95.8	103.4	99.6	105.7	95.3	113.8	115.3	100.5

※血漿分画製剤用血漿量を除く。

3. 場所別献血の年度別状況

区分 年度	献血ルームうらら (血液センター)		献血ルーム ももたろう		献血バス						オープン献血		総献血者数 (人)	前年度比 (%)
	献血者数 (人)	比率 (%)	献血者数 (人)	比率 (%)	職域 (人)	地域 (人)	学域 (人)	街頭 (人)	献血者数計 (人)	比率 (%)	献血者数 (人)	比率 (%)		
R4	16,969	21.4	24,189	30.5	13,935	6,073	1,861	16,224	38,093	48.1	0	0.0	79,251	99.7
R3	16,897	21.2	23,998	30.2	14,116	6,194	846	17,477	38,633	48.6	0	0.0	79,528	99.6
R2	17,305	21.7	25,356	31.8	14,255	6,188	1,730	15,001	37,174	46.6	0	0.0	79,835	102.4
R1	15,271	19.6	23,698	30.4	13,859	6,687	4,686	13,735	38,967	50.0	666	0.9	77,936	102.4
30	14,362	18.9	22,637	29.7	15,029	6,253	4,316	13,532	39,130	51.4	680	0.9	76,129	100.9

※献血バスにはオープン献血を加えて計上している。

4. 場所別種類別献血の年度別状況

区分 年度	献血ルームうらら (血液センター)			献血ルームももたろう			献血バス						合計			
	200mL 献血	400mL 献血	成分 献血	200mL 献血	400mL 献血	成分 献血	200mL 献血	400mL 献血	成分 献血	計	成分 献血	200mL 献血	400mL 献血	成分 献血	計	
R4	213	5,489	11,267	16,969	448	10,321	13,420	24,189	37	38,056	0	38,093	698	53,866	24,687	79,251
R3	241	5,705	10,951	16,897	535	9,891	13,572	23,998	101	38,532	0	38,633	877	54,128	24,523	79,528
R2	349	5,698	11,258	17,305	563	9,884	14,909	25,356	269	36,905	0	37,174	1,181	52,487	26,167	79,835
R1	251	5,011	10,009	15,271	492	8,956	14,250	23,698	588	38,379	0	38,967	1,331	52,346	24,259	77,936
30	314	4,600	9,448	14,362	820	9,034	12,783	22,637	568	38,562	0	39,130	1,702	52,196	22,231	76,129

※献血バスにはオープン献血を加えて計上している。

5. 供給の状況

種別	月別												計			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
全血 (単位)	令和4年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	令和3年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年度比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
血液成分 (単位)	令和4年度	18,193.0	18,880.0	20,398.0	20,444.0	19,717.0	20,267.0	20,470.0	19,668.0	21,083.0	18,733.0	19,278.0	21,243.0	238,374.0		
	令和3年度	20,919.0	21,226.0	20,751.0	20,573.0	19,450.0	19,958.0	21,649.0	20,765.0	20,940.0	20,526.0	19,873.0	20,965.0	247,595.0		
	対前年度比(%)	87.0	88.9	98.3	99.4	101.4	101.5	94.6	94.7	100.7	91.3	97.0	101.3	96.3		
年度別総供給 (単位)	令和4年度	18,193.0	18,880.0	20,398.0	20,444.0	19,717.0	20,267.0	20,470.0	19,668.0	21,083.0	18,733.0	19,278.0	21,243.0	238,374.0		
	令和3年度	20,919.0	21,226.0	20,751.0	20,573.0	19,450.0	19,958.0	21,649.0	20,765.0	20,940.0	20,526.0	19,873.0	20,965.0	247,595.0		
	対前年度比(%)	87.0	88.9	98.3	99.4	101.4	101.5	94.6	94.7	100.7	91.3	97.0	101.3	96.3		

※数字は200mL献血由来で換算し、供給した総供給単位数である。
血液成分は献血された血液を分離したもので、赤血球、血漿、血小板等の総単位数である。

6. 年度別献血者の状況

(単位：人)

種別	年度	30	R1	R2	R3	R4
200m L 献血		1,702	1,331	1,181	877	698
400m L 献血		52,196	52,346	52,487	54,128	53,866
成分献血		22,231	24,259	26,167	24,523	24,687
血小板		11,608	9,976	8,215	8,002	7,885
血漿		10,623	14,283	17,952	16,521	16,802
計		76,129	77,936	79,835	79,528	79,251

7. 年度別献血量の状況

(単位：L)

種別	年度	30	R1	R2	R3	R4
200m L 献血		340.40	266.20	236.20	175.40	139.60
400m L 献血		20,878.40	20,938.40	20,994.80	21,651.20	21,546.40
成分献血		7,632.35	9,207.14	10,597.42	9,534.69	9,838.34
血小板		2,533.10	2,256.50	1,968.50	1,926.55	7,895.49
血漿		5,099.25	6,950.64	8,628.92	7,608.14	1,942.85
計		28,851.15	30,411.74	31,828.42	31,361.29	31,524.34

※血漿分画製剤用血漿量を除く。

8. 場所別年代別献血の状況（令和4年度）

(単位：人)

区分	場所	献血ルームうらら (血液センター)	献血ルーム ももたろう	献血バス	合計
16～19歳		463	858	1,271	2,592
20～29		1,746	3,028	5,528	10,302
30～39		1,999	3,521	6,349	11,869
40～49		4,408	6,326	10,068	20,802
50～69		8,353	10,456	14,877	33,686
計		16,969	24,189	38,093	79,251

※献血バスにはオープン献血を加えて計上している。

9. 場所別職業別献血の状況（令和4年度）

(単位：人)

区分	場所	献血ルームうらら (血液センター)	献血ルーム ももたろう	献血バス	合計
公務員		2,385	3,312	7,059	12,756
会社員		9,327	13,861	22,193	45,381
高校生		176	420	366	962
学生		944	1,407	1,923	4,274
その他		4,137	5,189	6,552	15,878
計		16,969	24,189	38,093	79,251

※献血バスにはオープン献血を加えて計上している。

●保健所管内別・市町村別献血状況（場所別）

保 健 所 市 町 村	場所別献血者数（人）				保 健 所 市 町 村	場所別献血者数（人）			
	200mL	400mL	成分	計		200mL	400mL	成分	計
備前保健所	685	27,132	24,687	52,504	備北保健所	0	1,392	0	1,392
岡 山 市	685	24,652	24,687	50,024	高 梁 市	0	770	0	770
玉 野 市	0	353	0	353	新 見 市	0	622	0	622
瀬 戸 内 市	0	465	0	465	真庭保健所	0	1,088	0	1,088
吉備中央町	0	121	0	121	真 庭 市	0	1,074	0	1,074
備 前 市	0	930	0	930	新 庄 村	0	14	0	14
赤 磐 市	0	335	0	335	美作保健所	8	4,628	0	4,636
和 気 町	0	276	0	276	津 山 市	8	3,184	0	3,192
備中保健所	5	19,626	0	19,631	鏡 野 町	0	256	0	256
倉 敷 市	5	16,099	0	16,104	久米南町	0	75	0	75
総 社 市	0	827	0	827	美 咲 町	0	166	0	166
早 島 町	0	129	0	129	美 作 市	0	447	0	447
笠 岡 市	0	769	0	769	勝 央 町	0	223	0	223
井 原 市	0	589	0	589	奈 義 町	0	264	0	264
浅 口 市	0	509	0	509	西 粟 倉 村	0	13	0	13
里 庄 町	0	420	0	420	合 計	698	53,866	24,687	79,251
矢 掛 町	0	284	0	284					

★場所別献血者数・・・献血者の住所地にかかわらず、献血した場所の市町村毎に算出した。
（令和5年3月31日現在：保健所毎に算出）

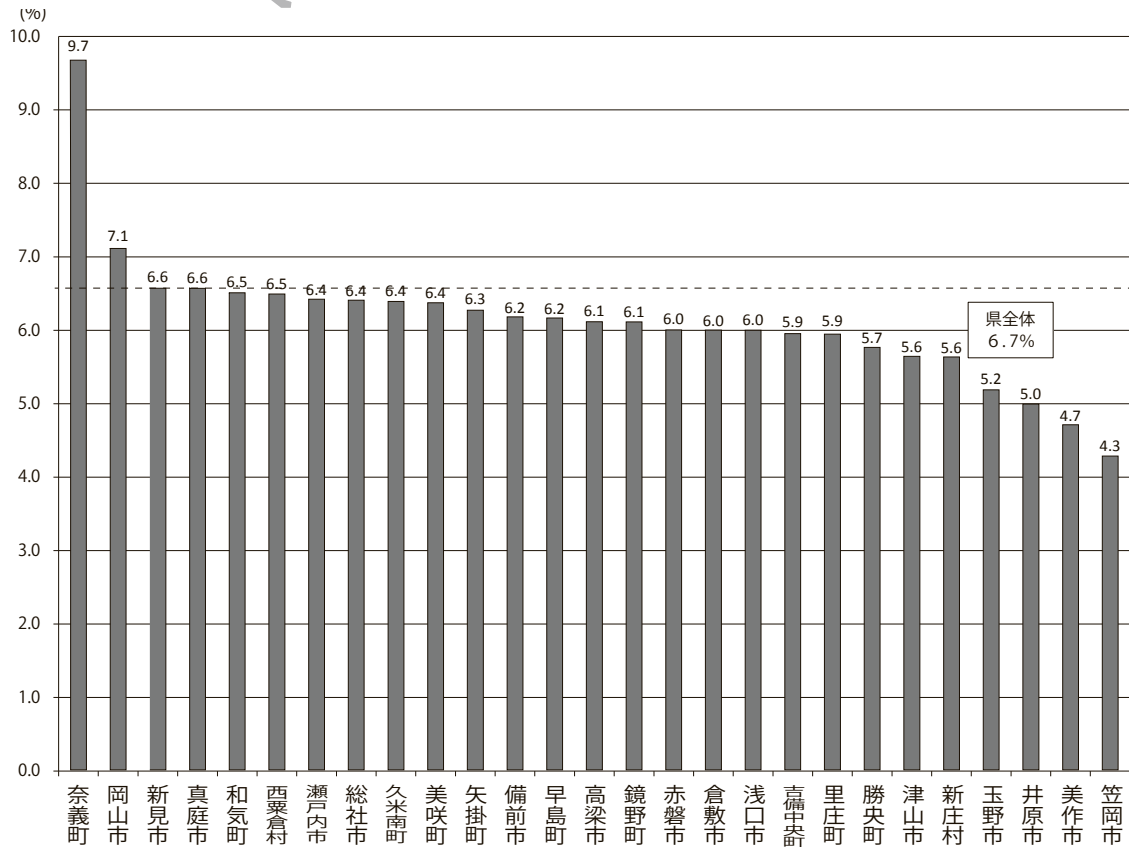
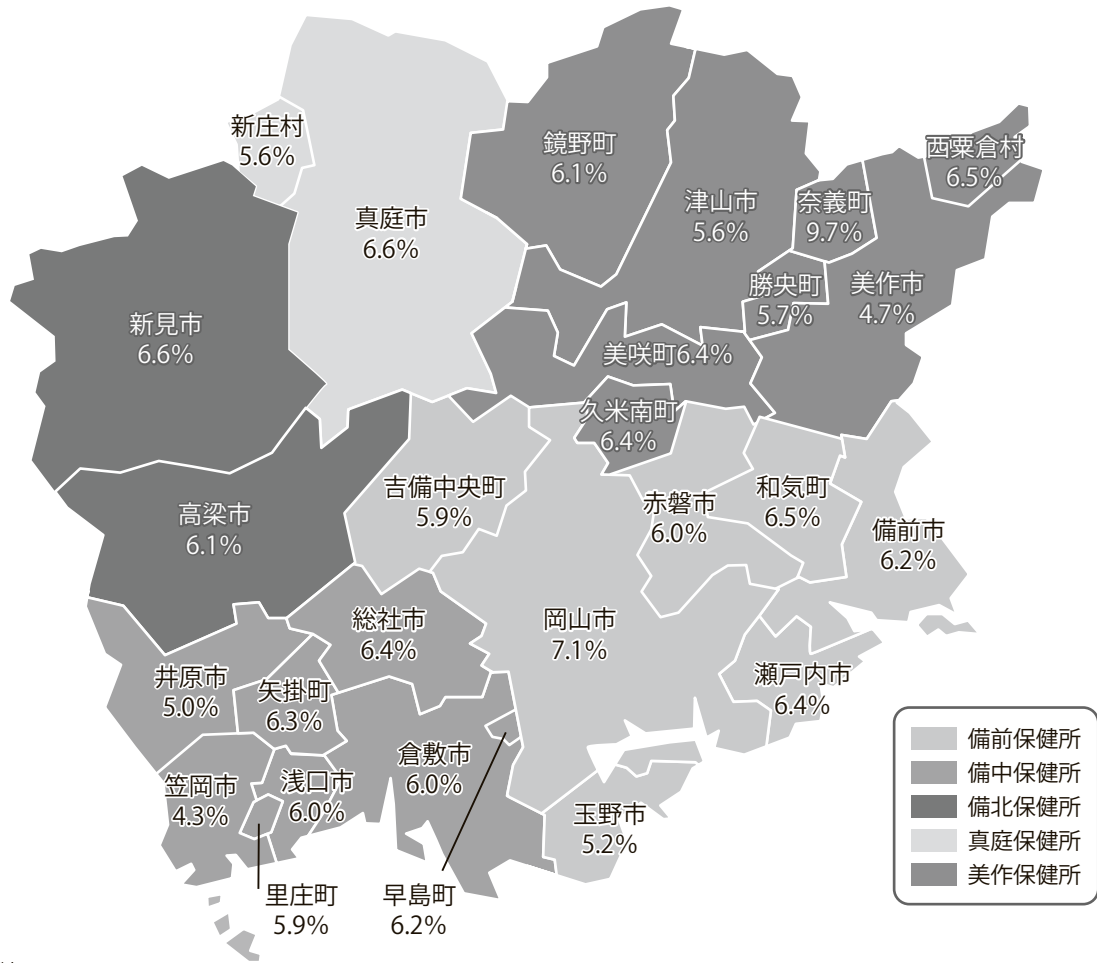
◎保健所管内別・市町村別献血状況（住所別）

保健所 市町村	人口 (人)	献血可能 人口(人)	住所別献血者数(人)				献血率 (%)	献血可能 人口から みた献血率 (%)	人口1,000 人あたり 献血量 (L)
			200mL	400mL	成分	計			
備前保健所	898,591	579,597	494	23,469	15,936	39,899	4.4	6.9	17.7
岡山市	704,487	464,070	454	18,988	13,622	33,064	4.7	7.1	18.6
玉野市	56,799	33,399	3	1,097	628	1,728	3.0	5.2	12.2
瀬戸内市	36,667	22,451	8	927	509	1,444	3.9	6.4	15.7
吉備中央町	10,680	6,193	4	236	128	368	3.4	5.9	13.7
備前市	32,667	19,265	7	873	312	1,192	3.6	6.2	14.6
赤磐市	43,602	26,245	14	941	629	1,584	3.6	6.0	14.5
和気町	13,689	7,974	4	407	108	519	3.8	6.5	15.1
備中保健所	705,879	447,168	134	20,572	5,679	26,385	3.7	5.9	14.9
倉敷市	479,861	309,110	107	14,395	4,105	18,607	3.9	6.0	15.5
総社市	69,837	44,373	9	2,094	739	2,842	4.1	6.4	16.3
早島町	12,726	7,781	3	347	129	479	3.8	6.2	15.0
笠岡市	46,270	27,958	4	1,055	131	1,190	2.6	4.3	10.3
井原市	38,818	23,332	5	935	233	1,173	3.0	5.0	12.1
浅口市	33,607	19,892	3	1,009	185	1,197	3.6	6.0	14.2
里庄町	11,062	6,788	0	340	60	400	3.6	5.9	14.5
矢掛町	13,698	7,934	3	397	97	497	3.6	6.3	14.5
備北保健所	56,299	32,313	5	1,725	312	2,042	3.6	6.3	14.5
高梁市	28,466	16,504	3	834	168	1,005	3.5	6.1	14.1
新見市	27,833	15,809	2	891	144	1,037	3.7	6.6	14.9
真庭保健所	44,297	25,571	8	1,413	257	1,678	3.8	6.6	15.1
真庭市	43,424	25,109	8	1,387	257	1,652	3.8	6.6	15.2
新庄村	873	462	0	26	0	26	3.0	5.6	11.9
美作保健所	174,214	105,875	20	4,984	1,050	6,054	3.5	5.7	13.9
津山市	98,811	62,207	12	2,908	559	3,479	3.5	5.6	14.1
鏡野町	12,610	7,376	0	330	121	451	3.6	6.1	14.3
久米南町	4,605	2,473	4	110	44	158	3.4	6.4	13.6
美咲町	13,513	7,635	4	358	124	486	3.6	6.4	14.3
美作市	26,531	15,250	0	638	75	713	2.7	4.7	10.7
勝央町	10,981	6,747	0	345	42	387	3.5	5.7	14.1
奈義町	5,768	3,371	0	262	65	327	5.7	9.7	22.7
西粟倉村	1,395	816	0	33	20	53	3.8	6.5	15.2
県外			37	1,703	1,453	3,193			
合計	1,879,280	1,190,524	698	53,866	24,687	79,251	4.2	6.7	16.8

- ★人口…………… 令和4年1月1日現在の住民基本台帳による。
- ★献血可能人口…………… 令和4年1月1日現在の15才から69才の人口である。
(住民基本台帳の生産年齢人口で、献血可能年齢は16才から)
- ★住所別献血者数…………… 令和5年3月31日現在の人数を保健所毎に算出した。
献血した場所が県内のどこであっても、献血者の住所がある市町村毎に算出した。
- ★献血可能人口からみた献血率…………… 令和4年1月1日現在の献血可能人口に対する住所別献血者数の割合である。
- ★人口1,000人あたり献血量 …… 令和4年1月1日現在の人口に対する献血量を算出した。(成分献血は、400mLで換算)

●保健所管内別・市町村別献血状況（住所別）

献血可能人口から見た献血率



血液検査項目の一覧表

献血された血液について、次のような検査を行っております。

	検査項目	輸血用血液の 安全性のための 検査項目	献血者の希望により検査結果を お知らせする検査項目
血液型関連	ABO血液型検査	○	○
	Rho(D)血液型検査	○	○
	赤血球不規則抗体スクリーニング検査	○	
感染症関連	梅毒検査(梅毒血清学的検査)	○	検査の結果、異常を認めた場合 通知(HIV検査、パルボウ イルスB19抗原検査を除く)
	B型肝炎検査(HBs抗原、HBc抗体)	○	
	C型肝炎検査(HCV抗体)	○	
	E型肝炎検査(HEV NAT検査)	○	
	HIV1/2抗体検査	○	
	HTLV-1抗体検査	○	
	ヒトパルボウイルスB19抗原検査	○	
生化学関連	ALT (GPT) 検査	○	○
	γ-GTP検査		○
	総蛋白(TP) 検査		○
	アルブミン(ALB) 検査		○
	アルブミン対グロブリン比(A/G)		○
	コレステロール(CHOL) 検査		○
	グリコアルブミン(GA) 検査		○
血球数関連	赤血球数(RBC)		○
	ヘモグロビン濃度(Hb)		○
	ヘマトクリット値(Ht)		○
	平均赤血球容積(MCV)		○
	平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)		○
	平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)		○
	白血球数(WBC)		○
	血小板数(PLT)		○

生化学検査の項目

検査項目	検査法 基準値(単位)	説明
ALT (GPT)	UV法 8~49(IU/L)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	レート法 9~68(IU/L)	肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く1カ月位禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白TP	ビウレット法 6.6~8.2(g/dL)	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	改良型BCP法 4.0~5.1(g/dL)	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン 対 グロブリン比 A/G	1.3~2.1	血清蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
コレステロール CHOL	酵素法 140~259 (mg/dL)	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝、胆道、腎、甲状腺の病気とその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起しやすいとされています。
グリコアルブミン GA	酵素法 16.5%未満(%)	糖尿病の検査の一つです。過去約2週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも15.6%以上の場合は注意が必要です。

血球計数検査の項目

検査項目	検査法 基準値(単位)	説 明	
赤血球数 RBC	男性 418～560($\times 10^4/\mu\text{L}$) 女性 384～504($\times 10^4/\mu\text{L}$)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。	貧血の有無を知る目安となります。
ヘモグロビン濃度 Hb	男性 12.7～17.0(g/dL) 女性 11.0～14.8(g/dL)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(色素)によるもので、赤血球の働きの中心となっています。	
ヘマトクリット値 Ht	男性 38.8～50.0(%) 女性 34.6～44.6(%)	ヘマトクリット値は、一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。	
平均赤血球容積 MCV	83.0～99.5(fL)	赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。	貧血の場合、その種類の判定の目安となります。
平均赤血球 ヘモグロビン量 MCH	26.8～33.5(pg)	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン濃度から算出したものです。	
平均赤血球 ヘモグロビン濃度 MCHC	31.7～35.2(%)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値から算出したものです。	
白血球数 WBC	38～89($\times 10^2/\mu\text{L}$)	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。	
血小板数 PLT	17.0～36.5($\times 10^4/\mu\text{L}$)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。	

主な輸血用血液・血漿分画製剤の一覧表

製剤の種類		説 明
輸血用血液製剤	赤血球製剤	赤血球製剤は血液から血漿、白血球及び血小板の大部分を取り除いたもので、慢性貧血、外科手術前・中・後の輸血時などに用いられる。赤血球製剤にはいくつかの種類があり、患者の症状等に応じて使い分けられている。
	血漿製剤	新鮮な血漿には各種の凝固因子が含まれており、凝固因子の欠乏による出血傾向の際に用いられる。血漿製剤の多くは採血した血液より分離した直後の血漿を直ちに凍結した新鮮凍結血漿である。
	血小板製剤	血小板製剤は成分採血装置を用いて血小板成分献血により得られたもので、血小板数が減少したり、血小板産生の低下による減少をみた場合、あるいは血小板の機能に異常がある場合等で、出血していたりあるいは出血の危険性の高い場合に出血予防のために用いられる。
	全血製剤	献血血液に血液保存液を加えたものが全血製剤であり、大量輸血時等に使用されることもあるが、赤血球成分製剤の使用が主流となったため、現在ではほとんど使われていない。
血漿分画製剤		血漿に含まれるアルブミン、免疫グロブリン、血液凝固因子等のタンパク質を分離し取り出したものが血漿分画製剤である。アルブミン製剤はやけどやショック等の際に、免疫グロブリン製剤は重症感染症の治療や、ある種の感染症の予防や免疫機能が低下した場合等に、凝固因子製剤は血友病等に用いられる。

市町村献血推進事業

	献血推進協議会（献血推進委員会）						献 血			献血者への記念品配布	啓発用チラシ作成配布
	設置の有無			開催回数	研修会の開催	支部への助成	広報誌の作成配布	実施日等の広報活動	協力者の表彰 (市町村独自)		
	A	B	C								
備前保健所											
岡山市	○			0				○			
玉野市								○			○
瀬戸内市							○	○		○	○
吉備中央町								○			
備前市							○	○			○
赤磐市								○		○	
和気町								○			
備中保健所											
倉敷市							○	○			○
総社市								○		○	
早島町							○	○		○	○
笠岡市		○		1				○			
井原市			○	0				○		○	
浅口市								○			
里庄町								○			
矢掛町								○			
備北保健所								○			
高梁市		○		15			○	○			○
新見市			○	1		○		○			○
真庭保健所								○			○
真庭市			○	1		○		○		○	○
新庄村			○	1				○		○	○
美作保健所											
津山市		○		1	○			○			
鏡野町								○		○	○
久米南町		○		3	○	○	○	○		○	○
美咲町								○		○	○
美作市							○	○			○
勝央町								○			
奈義町								○		○	
西粟倉村							○	○			

A：献血推進協議会を設置
 B：献血推進委員会を設置
 C：公衆衛生協議会等において、献血推進に関する議題を行っている場合

表彰状及び感謝状贈呈団体（個人）

厚生労働大臣表彰状（3団体）

岡山市保健所管内	協同組合岡山機工センター 岡山市南輝学区愛育委員会
倉敷市保健所管内	中国電力株式会社 玉島発電所

厚生労働大臣感謝状（7団体）

備前保健所管内	和気ライオンズクラブ 日本ノート株式会社 岡山工場
備中保健所管内	タカヤ株式会社
真庭保健所管内	真庭市消防本部
美作保健所管内	内外電機株式会社津山工場
岡山市保健所管内	オムロン株式会社 岡山事業所
倉敷市保健所管内	天理教玉島大教会

岡山県知事感謝状（6団体・30名）

団 体

美作保健所管内	医療法人 平野同仁会 津山警察署 マックスバリュ西日本株式会社 マルナカ美作店 エヌイーシール株式会社 久米南工場
岡山市保健所管内	岡山県運転免許センター
倉敷市保健所管内	株式会社高田工業所 中四国支社

個 人（献血回数200回以上）

岡山市	赤 岩 知 政 板 野 敬 吾 紙 屋 和 司 徳 田 豊 西 博 之 松 岡 清 隆 矢 島 さおり 和 田 ア キ	石 川 幸 夫 岩 本 章 佐々木 薫 仲 村 直 東 孝 文 松 本 康 夫 矢 吹 留美子	石 黒 貴 光 片 山 正 昭 佐 野 紳 司 難 波 康 弘 廣 田 健 圓 井 大 介 由 利 崇 志
倉敷市	三 好 理 佳		
津山市	大 月 寿 夫		
玉野市	佐々木 一 哉		
総社市	佐々木 康 之		
瀬戸内市	長 崎 憲 治		
真庭市	植 田 悠 敬		
美咲町	鈴 鹿 滋		
	他1名		

日本赤十字社銀色有功章（1団体）

岡山市保健所管内 学校法人吉備学園 岡山商科大学

日本赤十字社岡山県支部長感謝状（6団体）

備中保健所管内 株式会社 せとうちエステート
 真庭保健所管内 真庭警察署
 美作保健所管内 河井林産株式会社 カワイ会
 株式会社 ソフィア
 岡山市保健所管内 岡山市水道局
 倉敷市保健所管内 学校法人岡山瀬戸内学園 倉敷高等学校

岡山県赤十字血液センター所長感謝状（7団体）

備中保健所管内 笠岡警察署
 井原地区消防組合
 美作保健所管内 津山やよいライオンズクラブ
 医療法人 豊医会
 岡山市保健所管内 岡山南警察署
 倉敷市保健所管内 西日本三菱自動車販売株式会社 倉敷店
 ハローズ 中庄店

記念品の贈呈

日本赤十字社は、継続的に献血のご協力をいただいた方々へ感謝の意を表すため、その功労に対して以下の表彰を行っています。献血回数については、献血カード（手帳）にて確認されています。

■献血者顕彰規程

(1) 献血10回に到達した方 (2) 献血30回に到達した方 (3) 献血50回に到達した方	選択制記念品
(4) 献血200回到達者で以後100回毎に到達した方 (5) 献血50回以上の献血者で満60歳を迎えた後に献血をした方 (6) 献血50回以上の献血者で満68歳を迎えた後に献血をした方	感謝状

■表彰制度

献血者	有功章 (ガラス盃)	銀色…献血回数70回以上 金色…献血回数100回以上 但し、旧制度により銀色（30回）又は金色（50回）有功章を受章していない方のみ、上記献血回数に達成した場合、贈呈させていただきます。
献血推進団体 献血団体 献血推進者	支部長感謝状 有功章 (銅板楯) 感謝状	銀杯…活動年数5年以上 金杯…活動年数10年以上 銀色…活動年数15年以上 金色…活動年数20年以上 金色有功章受章後、10年ごと

※献血回数は成分献血・400mL献血・200mL献血全て1回

令和4年度献血事業実施概要について

最近の血液事業は、高齢化をはじめ、医療技術の進歩により、血液製剤の必要性が高まる一方で、少子化の進展により献血可能人口が減少しており、将来にわたって安全な血液製剤の安定的確保や血漿分画製剤用原料血漿の国内自給率の向上が求められている。

本県においては、若年層を中心に広く県民に対して献血思想の普及を図るため、関係機関・団体の協力のもとに積極的な啓発活動を展開し安定した献血者の確保に努めている。

第1 献血運動の推進

1 献血目標と献血状況

令和4年度の献血目標は、81,380人であったが、79,251人の方に協力をいただいた。なお、献血及び供給の月別状況は、別添のとおりである。

献 血 区 分 場 所	全 血 献 血 (人)		成分献血 (人)	合 計 (人)
	200mL 献血	400mL 献血		
献血ルームうらら (血液センター)	213 (199)	5,489 (4,185)	11,267 (11,453)	16,969 (15,837)
献血ルームももたろう	448 (641)	10,321 (11,475)	13,420 (15,676)	24,189 (27,792)
移動献血車	37 (376)	38,056 (37,375)	— (—)	38,093 (37,751)
合 計	698 (1,216)	53,866 (53,053)	24,687 (27,129)	79,251 (81,380)
前年度実績	877	54,128	24,523	79,528
対前年度比	79.6%	99.5%	100.7%	99.7%
目標達成率	57.4%	101.6%	91.0%	97.4%

() は、献血目標値

2 広報活動の状況

(1) 啓発資材の配布等

献血思想普及啓発用のパンフレット、広報誌、ポスター等を各種会議やその他あらゆる機会を通じて活用し、広く県民に対する積極的な広報啓発活動に努めた。

啓 発 資 材	部 数
令和3年度「献血の概況－献血おかやま」	400部
「愛の血液助け合い運動」ポスター	400枚
「はたちの献血キャンペーン」ポスター	320枚
高校生用啓発パンフレット「16歳からできること「献血」」	21,100部
高校卒業生用啓発チラシ	17,600枚

(2) 献血思想の普及

テレビ・ラジオ・新聞等の報道機関やその他関係団体の協力を得るとともに、各種広報媒体を活用し、県民に対する献血思想の普及に努めた。

広 報 媒 体	回 数
データ放送「県のお知らせ」	1 回
ラ ジ オ「お知らせ番組」	7 回
テ レ ビ「晴れの国生き活きテレビ」	2 回
広 報 誌「晴れの国おかやま」	3 回
デジタルサイネージ	R4.7.1～7.31
岡山駅前電停横啓発塔	R4.7.1～8.31
県庁舎懸垂幕	R4.8.1～15

3 「岡山県愛の血液助け合い運動」実施結果

7～8月の2か月間を「岡山県愛の血液助け合い運動」月間とし、報道機関等の協力を得て献血思想の普及啓発に努めるとともに各種の事業を実施し、夏場の血液確保に努めた。(実施主体：岡山県献血推進協議会)

(1) 月間オープニング行事

令和4年7月1日(金)に、岡山県赤十字血液センターにおいて、献血推進協議会委員、岡山赤十字看護専門学校生、岡山大学放送文化部等が参加し、オープニングセレモニーを行った後、岡山市内の学校8校に派遣し、献血推進協議会長メッセージを伝達するなどして献血への理解と協力を求めた。

月間中啓発活動として、岡山駅前電停横啓発塔及び県庁舎懸垂幕への掲出やラジオでの学生献血推進連盟代表による献血への呼びかけを実施した。また、管内市町村の協力を得て、献血推進協議会長メッセージ及び普及啓発資材を、管内の事業所、学校等に伝達・配布した。

啓 発 資 材	数 量
ポ ス タ ー	400枚
ク リ ア ファ イ ル	2,500枚

(2) 表彰状及び感謝状贈呈

献血推進に功績があった団体・個人に対して、厚生労働大臣表彰状・感謝状の伝達並びに岡山県知事、日本赤十字社岡山県支部長及び岡山県赤十字血液センター所長感謝状等を伝達した。

(表彰式は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。)

・表彰状及び感謝状贈呈団体等

種 別	団 体	個 人	合 計
厚生労働大臣表彰状	3	—	3
厚生労働大臣感謝状	7	—	7
県知事感謝状	6	30	36
日赤銀色有功章	1	—	1
日赤県支部長感謝状	6	—	6
血液センター所長感謝状	7	—	7
合 計	30	30	60

(3) 普及啓発

各保健所において、管内市町村の協力を得て普及啓発資材を管内の事業所、学校等に配布した。

啓 発 資 材	数 量
ポ ス タ ー	400枚
ク リ ア ファ イ ル	2,500枚

(4) 広報活動

- ・報道機関等への協力依頼
- ・ポスター等の掲示
- ・ホームページの活用
- ・パンフレット等の活用
- ・懸垂幕の掲出

4 若年層献血の推進

若年層の献血を推進するため、岡山県学生献血推進連盟、青少年赤十字等の協力を得て、献血思想の普及啓発等に努めた。

(1) 高校生への献血知識の普及啓発

令和4年度の高校生の献血の状況は、献血者数962人である。

(令和3年度：761人)

教育委員会及び岡山県赤十字血液センターの協力を得て、高校生を対象とした献血知識普及啓発パンフレット「16歳からできること「献血」」を作成し、献血知識の啓

発や意識の醸成に努めるとともに、厚生労働省が作成する高校生用テキスト「献血ホップステップジャンプ」を配布した。

また、高校卒業生を対象に、献血への協力を依頼する啓発チラシを配布した。

なお、県下各高校へ出向き、献血セミナー（赤十字出前講座）を実施し、献血知識の普及に努めた。令和4年度は3校で3回実施した。

(2) 大学生等若年層への普及啓発

岡山県学生献血推進連盟により、8月及び9月に「中国四国学生統一献血キャンペーン」、12月に「クリスマス献血キャンペーン」を実施するなど、学生独自の普及啓発活動が積極的に展開された（4月の「晴れの国献血キャンペーン」は中止）。

(3) 「はたちの献血」キャンペーン

1～2月の2か月間「はたちの献血」キャンペーンを行い、広報ポスターを掲示するとともに、1月6日（金）には岡山県赤十字血液センターにおいてオープニングイベントを開催し、一般公募で選ばれた「はたち」の若者の代表を血液センター「1日所長」に委嘱し、県庁の献血会場、献血ルームももたろう、民間放送連盟加盟局等を表敬訪問し、献血への協力をお願いした。

また、オープニングイベントにおいて岡山県献血推進協議会代表に対し、「はたち」を中心とした若者に向けたメッセージを岡山県学生献血推進連盟の学生に伝達し、加盟校に配布することにより若年層への献血協力を呼びかけた。



5 400mL献血等の推進

血液製剤の国内自給や安全性向上のため、400mL献血及び成分献血の推進及び普及を図った。

6 令和5年度献血計画策定会議の開催

令和5年度献血事業推進のための指針となる、献血目標や移動献血車の出動計画を定めるため、次の会議を開催した。

年 月 日	会 議 の 名 称	開 催 場 所
令和5年1月18日	市町村・保健所献血担当課長・担当者会議	WEB会議
令和5年3月23日	岡山県献血推進協議会	ピュアリティまきび

7 献血事業推進のための連絡調整

献血事業の推進を図るため、県、日本赤十字社岡山県支部、岡山県赤十字血液センターとの連絡会議を開催した。

8 複数回献血の推進

血液製剤の安定供給及び安全性向上の観点から重要な複数回献血者を確保するため、献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を推進し、複数回献血の推進に努めた。

第2 血液製剤の安全性確保

岡山県赤十字血液センターにおいては、血液製剤の安全性を向上させるため、献血時の本人確認、問診の徹底や、特にHIV等の感染症の検査を目的とした献血が行われないよう周知徹底を図った。

また、日本赤十字社においては、核酸増幅検査（NAT）等の検査体制の整備、輸血後GVHD（移植片対宿主病）の予防を目的とした血液製剤に対する放射線照射及び自己血輸血への協力体制の整備に努めた。

第3 血液製剤の適正使用の推進

平成3年度に設置した「岡山県血液製剤使用適正化普及委員会」を中心に、「血液製剤の使用指針」及び「輸血療法の実施に関する指針」を周知徹底するため、平成12年度から血液製剤使用量が多い病院において個別説明会や地域説明会などの事業を実施してきた。

平成29年度、血液製剤の安全、適正かつ効果的な使用のより一層の推進を図ることを目的とし、「血液製剤使用適正化普及委員会」、「合同輸血療法委員会」及び「輸血研究会」を統合して、新たに「岡山県合同輸血療法委員会」を設立した。令和4年度は次のとおり委員会を開催した。

年 月 日	委員会（講演会）の名称	開催場所
令和4年11月8日	合同輸血療法委員会	WEB会議
令和5年3月11日	合同輸血療法委員会講演会	WEB開催

献血キャラクター「けんけつちゃん」とは？



みなさん、こんにちは。
 わたしたちは、献血のご協力をお願いするためにやってきた「けんけつちゃん」です。
 より多くの人たちを助けるために「たすけアイランド」からやってきた、妖精だよ。
 みんなが幸せになるように、全国をまわっていきます。
 あなたにも会えるといいな。
 一生懸命がんばるから、どうぞよろしくっち！

献血基準

健康な方ならば、献血による身体への影響はほとんどありません。しかし、体調をくずしていたり、健康状態の良くない時に献血をすると健康を損ねる場合もあります。献血者の健康を守るためにさまざまな基準を設けています。

採血基準

項目	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200mL 献血	400mL 献血
1 回献血量	600mL以下 (循環血液量の12%以内)		200mL	400mL
年 齢	18歳~69歳 ^{*1}	男性:18歳~69歳 ^{*1} 女性:18歳~54歳	16歳~69歳 ^{*1}	男性:17歳~69歳 ^{*1} 女性:18歳~69歳 ^{*1}
体 重	男性45kg以上・女性40kg以上			男女とも50kg以上
最高血圧	90mmHg 以上180mmHg 未満			
最低血圧	50mmHg 以上110mmHg 未満			
脈 拍	40回/分以上100回/分以下			
体 温	37.5℃未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	12.0g/dL以上 (赤血球指数が標準 域にある女性は 11.5g/dL以上)	12.0g/dL以上	男性:12.5g/dL 以上 女性:12.0g/dL 以上	男性:13.0g/dL 以上 女性:12.5g/dL 以上
血小板数	————	15万/μL以上 60万/μL以下	————	————
1年に献血できる 回数 ^{*2*3}	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内		男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内
1年に献血できる 総献血量 ^{*2*3}	————		200mL 献血と400mL 献血を合わせて 男性1,200mL以内 女性800mL以内	

※1 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限られます。

※2 期間の計算は採血を行った日から起算します。

※3 1年は52週として換算します。

献血の間隔

今回の献血	血漿成分献血	血小板成分献血 [*]	200mL 献血	400mL 献血
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日 から献血できます。		男女とも4週間後の 同じ曜日から献血 できます。	男女とも8週間後 の同じ曜日から献 血できます。
血小板成分献血				
400mL 献血				男性は12週間 後・女性は16週 間後の同じ曜日か ら献血できます。
200mL 献血				

※献血の間隔があいていても、採血基準にある年間献血回数以上の献血はできません。

※血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間以上あけてください。

献血ルームうらら(血液センター)・献血ルームももたろう案内図



献血ルームうらら(血液センター)

受付時間

9:00～12:00(成分献血～11:00)
13:00～17:00(成分献血～16:00)

休日／火曜日、祝日

9月1日(創立記念日)、
12月29日～1月3日



献血ルームももたろう

受付時間

10:00～13:00(成分献血～12:00)
14:00～18:00(成分献血～17:00)

休日／12月31日～1月2日

■献血バス スケジュール案内 https://www.bs.jrc.or.jp/csk/okayama/place/m1_03_index.html

■献血に関してのお問い合わせは 保健所、市町村又は下記までお尋ねください。

- 献血ルームうらら(血液センター) 電話(086)256-6568 〒700-0012 岡山市北区いすみ町3-36
- 献血ルームももたろう 電話(086)225-6301 〒700-0822 岡山市北区表町1-5-1
岡山シンフォニービル1F
- 日本赤十字社岡山県支部 電話(086)225-3621 〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-20
- 岡山県保健医療部医薬安全課 電話(086)226-7341 〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
- 岡山県赤十字血液センターホームページアドレス <https://www.bs.jrc.or.jp/csk/okayama/>
- 岡山県ホームページアドレス <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/38/>